11. 貝類

選定・評価方法の概要

貝類では、前回の本土部レッドリスト 2010 に対象とした範囲を踏襲して、陸域・淡水域を含む陸水域 に生息する種とした。陸水域の一部として、いわゆる干潟に生息する種も対象とし、ハマグリ等も含めた が、干潟にも分布する海域主体に生息する種は基本的には対象外とした。また、種小名の確定していない 種(sp. で表記したもの;未記載種や現時点で種レベルの種名の確定が困難なもの)も対象とした。対象 種は、これまでに東京都から分布記録が報告されている種か、本レッドリストのための調査を含め東京都 産の標本が存在するもののみとした。

対象とした年代は前回同様に明治期以降としたため、それより以前の外来種と考えられる種(例えばマ シジミ)も評価対象とした。また、最近の遺伝子解析によって在来種が多くの群に分かれることが判明し ても従来から知られていた種との異同が明確にされていない場合、これまでレッドリストに掲載されてき た種は自然環境を指標する残すべきものと考え、今回も対象とした。

貝類では、分布記録は比較的多く、多摩川流域としておよそ東京都を網羅する地域の陸域・淡水域・海 域のおよそ20世紀までの記録をまとめ(黒住、2003)、前回の評価の基礎とした。それ以降の調査結果と して、主に陸域・淡水域での南多摩の八王子市(黒住, 2016)、区部の明治神宮(黒住, 2013)での量的 評価や皇居での10年間の確認の有無のリスト(上島ほか,2014)、多くの環境アセスメントデータにより 新規の評価を行った。干潟からヨシ原に生息する種に関しても多摩川左岸の近年の調査(柚原ほか、 2015) と共に、河川水辺の国勢調査を含めた多数の環境アセスメントのデータを利用した。

従来から陸産貝類の好適な生息地として知られている西多摩の日原鍾乳洞等の地域では、大規模な森林 伐採等の人為的な変化は少ないと想定されていたが、近年の入手できる情報がほとんどなかったので現地 調査を行った。日原地域以外にも、放棄水田で重要な種が確認されている連光寺・若葉台里山保全地域や 人工干潟である葛西海浜公園東なぎさ等で現況調査を行い、評価の基礎資料とした。

貝類では、高度経済成長期以降のものを除き経時的な密度変化を示すデータはほとんど存在しないので、 評価は定性的要件に基づいた。そのため、基本的に絶滅危惧 I A 類 (CR) と絶滅危惧 I B 類 (EN) の 評価を区別しなかった。

対象としたものは、およそ陸産 100 種、淡水産 30 種、汽水・干潟産 20 種程度で、このうち、93 種を 検討対象種とした。

選定・評価結果の概要

評価の結果、検討対象種93種のうち、87種を掲載種として選定した。区部にのみ生息環境が存在する 汽水・干潟産種では、干潟の消失等で多くの種が絶滅と判断されたが、江東区の葛西海浜公園東なぎさや 多摩川河口左岸にはヨシ原とその前面に小面積の砂泥干潟が存在しており、このような場所に生息する種 も比較的多く掲載した。

多摩川のヨシ原等は近年多発している洪水によって激変した状況を認め、現在は密度が高い種でも高い ランクを与えた種もあった。このような状況下で、東なぎさは造成されたものではあるが、人の立ち入り が強く規制され、また洪水等の影響を受けにくく、そして干潟からヨシ原(潮上帯)まで環境が連続して 存在しており、小巻貝のカワザンショウガイ類や二枚貝のサビシラトリ等の東京湾における干潟からヨシ 原に生息する種の避難場所(あるいは供給源)となっていると考えられ、今後も同様な管理が期待される。 また、干潟等の環境アセスメントでは、小面積を採泥器で調査することが主流であるが、多様な環境を調 査できる目視(見つけ採り法)を重視するような調査依頼も望まれる。ただ、この採泥器調査によって、 前回リストに掲載していたカワグチツボとウミゴマツボは、潮下帯に時に高密度で生息していることがわ かり、今回の評価で選定外とした。

淡水産の種も、区部を中心に水田・湿地の埋め立てや水質汚染等による生息場所の消失・変質によって 多くの種が高いランクとなった。淡水産二枚貝類では、皇居のカラスガイやタナゴの産卵母貝となる種(マ

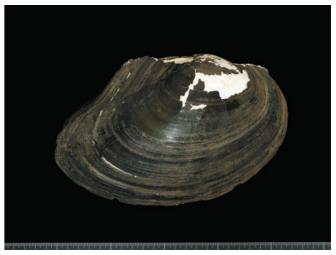
ツカサガイ等)では、人為的な移入の可能性も 否定できない場合もあり、今後の検討を待つこ ととした。近年、溜め池等を干し上げて、外来 生物の駆除や池の環境改善のために、"かいぼ り"を行うことが多くなってきている。今回も これまで東京都から記録のなかったイシガイが 北多摩からかいぼりによって確認された。近県 から記録があるものの、東京都の記録・標本を 確認できなかったフネドブガイは選定外となっ た。逆に、ヌマガイは少数ながら、各所で継続 的に確認されており、やはり選定しなかった。 このように、かいぼりの折に得られた情報と標 本がうまく集約されることが望ましい。

陸産貝類では、人為的変革が少なく高い多様 性を保っていると考えてきた多摩地域の高尾山 や日原等の鍾乳洞周辺での調査で、確認はでき たものの個体数の激減している種が多数存在し ていることが明らかとなり、キセルガイ類を中 心に絶滅が危惧された。一方、丘陵地や低地部 に残存している皇居等の良好な自然環境を有す る地点での変化は大きくないようであった。

南多摩の多摩市内の湿地から、日本各地にお いても生息地の少ないナタネキバサナギガイと 同属のキバサナギガイ類が報告され、緑地管理 者により柵で囲われて無許可の立入りを禁止す



葛西海浜公園の干潟



市街地の残された湧水地 (板橋区)

るように保全されており、今後の対応策の一例として評価されよう。ただ、現地調査により、湿地の乾燥 化が急速に進行して2種が激減していることが確認された。今後の管理方策の検討が望まれる。なお、後 種のキバサナギガイ類は、これまでにヤマトキバサナギガイ(エコたまグリーン NEWS)、あるいはキバ サナギガイ(東京都環境局)として報告され、2つの名は現在もインターネットで検索できるが、最近の 研究では、オキノエラブキバサナギガイ類似種とされており (Nekola et al., 2018)、全て同じ種を指して いることに注意されたい。他にもキバサナギガイとして、多摩川の河川敷から死殻が報告されていたもの (黒住、2003) も、オキノエラブキバサナギガイ類似種として評価した。

(黒住 耐二)

引用文献

エコたまグリーン NEWS 第 147 号

https://www.ecomeetingtama.jp/kannkyoukaigi/wp/wp-content/uploads/2014/12/ecotamackeannews_ No147.pdf: 2020.2.29 閲覧

亀田勇一, 2018. 陸・淡水産腹足類日本固有種目録(2018年3月版)

http://www.kahaku.go.jp/reseach/activities/project/hotspot japan/endemic list: 2019.5.1 閲覧 環境省 https://www.env.go.jp/files/jp/110615.pdf: 2019.7.25 閲覧 東京都環境局

https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/natural environment/tokyo/area/50 renkouji.html: 2020.2.29 閲覧 黒住耐二、2003、多摩川水系の貝類から見た自然環境の現状把握と保全に関する研究、脚とうきゅう環 貝

黒住耐二,2013. 明治神宮で確認された非海産貝類,鎮座百周年記念第二次明治神宮境内総合調査報告 書: 416-431.

黒住耐二、2016. 貝類. 新八王子市史自然調查報告書,八王子市動植物目録: 247-254.

Nekola, J.C., S. Chiba, B.F. Coles, C.A Drost, T. von Proschwitz and M. Horsak, 2018. A phylogenetic overview of Genus Vertigo O. F. Muller, 1773 (Gastropoda: Pulmonata: Pupillidae: Vertigininae). Malacologia, 62 (1): 21-161.

日本ベントス学会(編), 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑, 海岸ベントスのレッドデータブック. xvii +285 pp.

奥谷喬司(編著), 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版], 1375 pp.

上島励・元珍力昇・長谷川和範・齋藤寛, 2014. 皇居の陸産貝類相. 国立科学博物館専報, (35): 197-210.

柚原 剛・田中正敦・阿部絢香・海上智央・多留聖典, 2015. 多摩川河口の塩性湿地に生息する表在性 ベントス相. 神奈川自然誌資料, (36):25-30.

(写真提供者)

丹下和仁、東京都港湾局

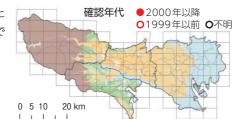
ツボミ カサガイ目 Patelloida conulus ユキノカサ科

■種の特性と生息状況: 1枚の殻になった海産巻貝類。殻長6.7mm、殻幅5.4mm、殻高5.1mm 程度の笠形で、やや薄質。側面観はやや膨らむ。殻頂は後方へ寄る。殻表はほぼ平滑で、光沢 がなく、種々の灰褐色の放射彩を有する。内面周縁は暗褐色のまだらで、上部は青白色、中央 は黄褐色。東京湾岸から記録されていた。他地域での情報から、埋立て以前の干潟潮間帯でウ ミニナ等に付着して生息していたと考えられるが、現在ではウミニナともども50年以上確認 されていない。

■生存を脅かす要因:水質汚濁と干潟の埋め立てによる海岸開発により本種は絶滅したが、残 存している干潟環境の改変に関しては十分な配慮が必要である。

■特記事項: 千葉県では、ウミニナ・ツボミと も個体数を増加させており、今後、東京都で もツボミが再定着する可能性は考えられる。

執 筆 者 黒住耐二 文献一覧 12, 14, 24, 47



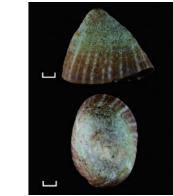


アマオブネ目

ヤマキサゴ科

原始紐舌目

ヤマタニシ科



EX

物

類

哺

乳

類

類

爬

虫

類

両

生

類

淡水魚類

昆 虫

類

甲

殻

類

7

Ŧ

類

貝

類

東京都外



ヤマキサゴ

Waldemaria japonica

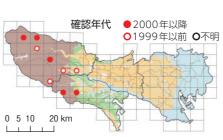
■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。 殻高6.5mm、殻径9.5mm 程度のソロバン玉形で、厚質・ 堅固。体層が殻高の大部分を占め、円い。臍孔はない。殻は紅褐色か淡黄褐色で、弱い光沢が ある。殻表に、細かい成長肋もあるが、平滑。殻□は円形で、石灰質のフタが殻□を完全に塞 ぐ。内唇滑層は明らかで、半透明白色。外唇は肥厚、反転し、白色。本州~九州に分布し、主 に高い落葉樹林域林床の落葉下や礫地に生息している。都内では、西多摩の石灰岩地を中心と した地域と南多摩の高尾山・元八王子町から記録されており、西多摩では決して多くはないが 数地点で確認できたが、高尾山では過去に普通とされていたが極めて少数個体しか見られな かった。

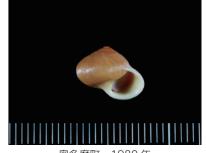
■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が 減少の要因と考えられるが、降水量減少等の 林床環境の乾燥のような温暖化が影響してい る可能性も想定される。

■特記事項:

執筆者 黒住耐二

文献一覧 1, 10, 31, 56, 57, 59





奥多摩町 1980年



サドヤマトガイ

Japonia sadoensis

■種の特性と生息状況:陸産巻貝類。殻高5mm、殻径7mm 程度の円錐形、薄質。体層が全 体の3/5を占め、臍穴は広く開く。縫合は深い。体層の殻表に2列の針状毛を密に巡らし、成 長脈も密で突出する。暗褐色。殻□縁は肥厚せず、円形。多旋型の薄い革質のフタを持つ。本 州 (関東地方以西) ~九州に分布し、広葉樹林の礫の混じる落葉下に生息している。都内では、 西多摩の高尾町・今熊山と区部の大田区蒲田と皇居の記録がある。皇居では、ごく最近でも生 息が確認されているが、蒲田では50年以上前の報告で、その後には発見されていない。

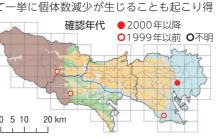
■ 生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられ、特に区部では生息地の 面積も狭く樹木伐採による林床の乾燥化によって一挙に個体数減少が生じることも起こり得

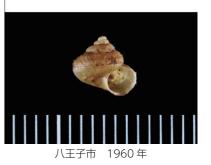
る。開発の影響もあるが、降水量減少等の林 床環境の乾燥のような温暖化が影響している 可能性も想定される。

■特記事項:

執筆者 黒住耐二

(文献一覧) 7, 8, 10, 12, 29, 59





爬

虫

類

両

生

類

水魚類

昆

虫

類

甲

殻

類

Ŧ

類

物

藻

類

哺

乳

類

甲

類

781

780

イブキゴマガイ Diplommatina collarifera

■ 種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高4mm、殻径2mm 程度の紡錘形、厚質。螺層は殻 頂が尖る。殻表にはやや密で一様な成長肋があり、縫合はやや浅い。色彩は赤褐色。体層中央 内部の上下に緊線という細い肋が存在し、ほぼ中央部に位置し、緊線の左側には水平の位置に 長い壁褶があり、およそ緊線に接する。殻□は丸く二重に肥厚し、内唇に褶がある。多旋型の 薄い革質のフタを持つ。関東地方以西~近畿地方の人為的攪乱の少ない広葉樹林の落葉下や礫 地に生息する。都内では、西多摩の日原・不老の両鍾乳洞周辺と御岳山から記録がある。近年 では倉沢鍾乳洞付近で確認されている。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、降水量減少等の林

床環境の乾燥のような温暖化が影響している 可能性も想定される。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二

(文献一覧) 31, 56, 57, 58

●2000年以降 O1999年以前 O不明

2020

2010

1960 年代後半

(-)

ゴマガイ Diplommatina cassa

原始紐舌目 ゴマガイ科 2020

2010

原始紐舌目

ゴマガイ科





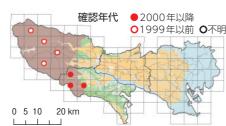
■ 種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高3mm、殻径1.5mm 程度の俵型、やや厚質。螺層 は殻頂部から一挙に大きくなり、3層目から体層までおよそ同程度の径となる。殻表には密で 一様な成長肋があり、縫合はやや深い。色彩は淡紅褐色だが、白色の亜成貝も多い。体層内部 の緊線はほぼ中央部に位置し、緊線の左側にはやや短い壁褶がある。殻口は丸く肥厚し、内唇 に褶がある。多旋型の薄い革質のフタを持つ。九州等からの記録もあるが、主に関東地方〜近 畿地方・四国北部に分布し、撹乱の小さな森林林床の落葉下に生息する。都内では、西多摩の 日原・不老・神戸の鍾乳洞付近や御岳山・刈寄山、南多摩の高尾山等の八王子市から報告され ている。個体数は多くはないものの、現在でも各地で生息が確認されている。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が 減少の要因と考えられるが、降水量減少等の 林床環境の乾燥のような温暖化が影響してい る可能性も想定される。

■特記事項:

執筆者 黒住耐二

文献一覧 1, 29, 57, 58, 59



原始紐舌目

タニシ科

マルタニシ

Cipangopaludina laeta

■ 種の特性と生息状況:淡水産巻貝類。殻高6cm、殻径4.5cm 程度の卵円形、やや薄質、体 層が全体の2/3を占め、臍穴はわずかに開く。縫合は深い。殻頂は通常浸食される。殻皮はや や光沢のある緑黄褐色。体層はほぼ平滑。外唇は肥厚し、通常黒く縁取られ、同様な成長停止 線が螺層中に形成される。殻口は卵形で、歯状突起を持たない。赤褐色で革質のフタを持つ。 低地部の水田等の淡水止水域の泥底に生息する。区部では皇居での生息が確認されている程度 であり、南多摩・西多摩では数か所で確認されているが移入の可能性もある。

■ 生存を脅かす要因: 水田の圃場整備や宅地化と水質汚濁により絶滅に瀕している。

■特記事項:

●2000年以降 執 筆 者 黒住耐二 O1999年以前 **○**不明 (文献一覧) 1, 8, 18, 29, 80



五日市町 1968年



あきる野市 1993年

オオタニシ Cipangopaludina japonica

原始紐舌目 タニシ科

 $\overline{}$ (-)2020 2010

■種の特性と生息状況:淡水産巻貝類。殻高6cm、殻径4.5cm 程度の卵円形、やや薄質、体

吸腔目

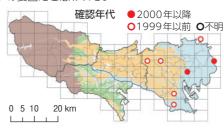


層が全体の2/3を占め、臍穴はわずかに開く。殻頂は通常浸食されず尖る。螺塔側面観は直線 的で、絳合はやや浅い。殻皮はやや光沢のある黒褐色。体層はほぼ平滑。外唇は通常肥厚せず、 黒く縁取られない。主に低地部の湧水起源の池沼沼池の止水域泥底に生息する。東京都の記録 は極めて少なく、戦前のものしか見つけ出せなかった。ただ、近年、皇居の濠で得られた個体 を確認しており、移入の可能性も否定できないが、まだ絶滅とは判断しなかった。南多摩のも のは移入とされている。

■生存を脅かす要因:湖沼開発と水質汚濁が減少の要因だと思われる。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 12,80





東京都外 1986年

 \bigcirc 2020 (ullet) $\|(\cdot)$ 2010

カワザンショウガイ Assiminea japonica

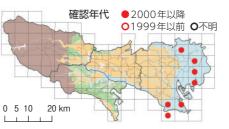
カワザンショウガイ科

■種の特性と生息状況:河口の汽水域にすむ小型巻貝類。殻高5.5mm、殻径4.1mm 程度の 円錐形で、厚質、堅固。体層周縁は僅かに角張り、縫合はやや深く段差となる。殻頂は侵食さ れていることが多い。殻表は平滑で、濁緑褐色の殻皮があり、通常、色帯も明瞭。臍穴は閉じ る。北海道南部〜九州に分布。潮間帯中部のアシ原に生息する。都内では、葛西海浜公園(東 なぎさ)・多摩川で生息が報告されている。

■ 生存を脅かす要因:海岸および湿地の開発で河口のアシ原が改変されることが減少の要因で ある。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 24,69





江戸川区 2019年

2020 (\cdot) 2010

ヒラドカワザンショウ 吸腔目 カワザンショウガイ科 Assiminea hiradoensis

■種の特性と生息状況:河口の汽水域にすむ小型巻貝類。殻高5.5mm、殻径4.0mm 程度の 円錐形で、厚質、堅固。体層周縁は僅かに角張り、縫合はやや深く段差となる。殻頂は侵食さ れず、残っていることが多い。殻表は平滑で、殻皮・色帯は変異するが、カワザンショウガイ とほぼ同様。臍穴は閉じる。本州(陸奥湾)~九州に分布。潮間帯中部のアシ原に生息する。 都内では、葛两海浜公園 (東なぎさ) で僅かに確認されている。

■生存を脅かす要因:海岸および湿地の開発で河口のアシ原が改変されることが減少の要因で

■ 特記事項: 潮間帯中部でカワザンショウガイと混生するが、同所的に両種が生息する場合に

は、僅かに低い潮位で見られることもある。 図示した東京都産の本種は、カワザンショウ ガイの可能性も残る。

執 筆 者 黒住耐二 文献一覧 17





爬

虫

類

両

生

類

淡水魚類

昆

虫

類

甲

殻

類

Ŧ

類

貝

類

クリイロカワザンショウ

吸腔目 カワザンショウガイ科 Angustassiminea castanea

■ 種の特性と生息状況:河口の汽水域にすむ小型巻貝類。殻高4.0mm、殻径2.4mm 程度の 細い円錐形で、厚質、堅固。体層周縁は角張らず、縫合はやや浅い。殻頂は侵食されずに残る。 殻表は平滑で、淡褐色の単色で、色帯等を持たない。臍穴は閉じる。本州 (陸奥湾:太平洋岸) ~九州に分布する。潮間帯上部のアシ原に生息する。都内では、葛西海浜公園(東なぎさ)・ 多摩川で確認されている。

■生存を脅かす要因:海岸および湿地の開発で河口のアシ原が改変されることが減少の要因で ある。

■特記事項:カワザンショウガイと同一潮位で見られることもあるが、通常、潮間帯上部に生 息する。

執筆者 黒住耐二 (文献一覧) 24,69

●2000年以降 O1999年以前 O不明

吸腔目



2020

2010



大田区 2014年

ヒナタムシヤドリカワザンショウ カワザンショウガイ科

Angustassiminea sp. cf. parasitologica

■ 種の特性と生息状況:河口の汽水域にすむ小型巻貝類。殻高3.7mm、殻径2.5mm 程度の 円錐形で、厚質、堅固。体層周縁は丸い。縫合はやや浅い。殻頂部は侵食されない。若いうち は、殻は光沢のある栗色で、縫合下に明瞭な黄白色帯を巡らす。殻表は平滑。臍穴は閉じる。 本州 (陸奥湾以南の太平洋岸) ~瀬戸内海~九州。潮間帯中部のアシ原に生息する。都内では、 葛西海浜公園 (東なぎさ)・隅田川・多摩川で生息が報告されている。

■ 生存を脅かす要因:海岸および湿地の開発で河口のアシ原が改変されることが減少の要因で ある。

■特記事項:潮間帯中部では、通常、カワザンショウガイよりも僅かに高い潮位で見られる。

前回のブックでは、ムシヤドリカワザンショ ウとなっているが、その後の研究で太平洋側 のものは別種とされたものの、未だ正式な記 載はなされていない。

執筆者 黒住耐二 文献一覧 24,69





江戸川区 2019年

2010

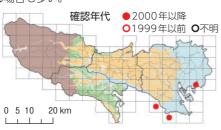
ヨシダカワザンショウ 吸腔目 カワザンショウガイ科 Angustassiminea yoshidayukion

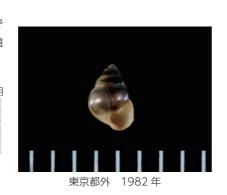
■ 種の特性と生息状況:河口の汽水域にすむ小型巻貝類。殻高3.2mm、殻径2.2mm 程度の 円錐形で、やや薄質、やや堅固。体層周縁は丸く、縫合はやや深い。殻頂は侵食されない。殻 は光沢のある淡栗色の単色で、平滑。臍穴は狭く開き、その周囲は黄色帯を巡らすように見え る。本州(陸奥湾)~九州に分布するとされる。満潮時でも海水に浸からないが、潮の影響の ある潮上帯のアシ原に生息する。都内では、多摩川河口で最近の生息が報告されている。

■ 生存を脅かす要因:海岸および湿地の開発で河口のアシ原が改変されることが減少の要因で ある。特に、本種では満潮時にも水没しない陸上植物生育地との境界潮位に生息するため、道 路や河川敷という利用により生息場所が消失する場合も多い。

■特記事項:東京都での個体数は元々少ない。

執筆者 黒住耐二 (文献一覧) 69





ミズゴマツボ 吸腔目 ミズゴマツボ科 Stenothyra japonica

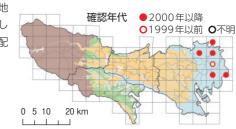
■種の特性と生息状況: 汽水産巻貝類。殻高4.2mm、殻径2.7mm 程度の卵円形で、この属 としては中形、やや厚質、やや堅固。体層が殻高の2/3を占め、丸い。殻は緑黄褐色で、弱い 光沢がある。殻表に、やや細かい点刻からなる螺状溝を持つ。殻口は円形で、革質のフタが殻 □を完全に塞ぐ。河□汽水域最奥部から淡水域の浅い泥底に生息する。東京都の湾岸部からは、 近年の「河川水辺の国勢調査」等々の多くのデータがあるものの(分布図)、そのほとんどが より小形で点刻のある螺状溝が粗く、弱い別種のウミゴマツボの誤同定と考えられる。ただ、 全てを誤同定とする根拠がないので、正確な生息状況は不明である。隣県の千葉県では確実な 生息が知られている。

■生存を脅かす要因:河□汽水域の海岸・湿地 開発と水質汚濁が減少の要因であり、残存し ている河口汽水域の改変に関しては十分な配 慮が必要である。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二

(文献一覧) 26



吸腔目

イツマデガイ科



lacksquare

•

DD

DD

2020

2010

東京都外 2009 年

 $\odot \| \odot \|$ EX (R) 2020 EX (\bullet) 2010

カタヤマガイ

Oncomelania fupensis nosophora

■ 種の特性と生息状況:淡水産巻貝類。殻高7.5mm、殻径2.8mm 程度の塔形、やや厚質。 螺塔が全体の2/3を占め、臍穴は裂け目状に開く。殻皮は光沢の強い栗色。殻表は平滑。外唇 は厚く肥厚する、殻口は卵形。低地部の湿地の止水域泥底に生息していた。これまで、東京都 からカタヤマガイの記録を見落としており、東京都 [旧北豊島郡赤塚村および志村<現板橋区 >] から記録されていることがわかったので、今回登載した。現在では、都内からカタヤマガ イは根絶されている。

■生存を脅かす要因:日本住血吸虫症の根絶のため、中間宿主のカタヤマガイが生息する湿地 の改変および殺貝によって絶滅したと判断される。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二

(文献一覧) 15





東京都外 1992年

(-)

 \subseteq

2020 2010

マメタニシ 吸腔目 エゾマメタニシ科 Parafossarulus manchouricus japonicus

■種の特性と生息状況:淡水産巻貝類。殻高13mm、殻径7mm 程度の卵形、やや薄質、体層 が全体の2/3を占め、臍穴は裂け目状に開く。殻頂は通常浸食され、消失する。殻皮はやや光 沢のある緑黄褐色。体層に10本程度の明瞭な螺肋を持つ。外唇は肥厚し、通常黒く縁取られる。 殻口は卵形で、歯状突起を持たない。白色で石灰質のフタを持つ。低地部の止水域の水草・転 石上に生息する。これまでは1937年報告しか確認できておらず絶滅という判断であったが、 比較的最近採集されたと考えられる江戸川区産の標本が図示されていることを知った。確認年 は不明であるが、50年以上前のものではないと考えられ、僅かに残存地域があると思われる。 ■生存を脅かす要因:湖沼開発と水質汚染が減少の要因だと思われる。

■ 特記事項

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 12,63

確認年代 ●2000年以降 ○1999年以前 ○不明 0 5 10 20 km



782

783

類 哺

物

藻

乳 類

甲 殻 類

類

Ŧ

貝

類

爬

虫

類

両

生

類

淡水魚類

昆

虫

類

甲

殻

類

Ŧ

類

類

784

物

藻

類

哺

乳

類

類

ク

Ŧ

785

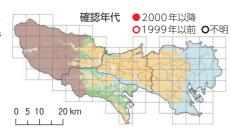
■種の特性と生息状況:海産巻貝類。殻高30mm、殻径10mm 程度の円筒形で、上方へ細くなり、成長しても殻頂部は磨滅するのみで、欠落しない。殻色は黒褐色から黄褐色まで変異し、種々の色帯を持つこともある。殻はやや薄質。各層には、20本程度のやや弱いが明瞭な縦肋を持ち、極めて弱い螺肋も有するが、平滑に見える。殻口外唇は肥厚せず、張り出さない。汽水域のアシ原の泥底に生息する。東京湾岸の蒲田周辺からの記録があったが、その後は確認されていないため、絶滅と判断した。

■ 生存を脅かす要因: 海岸開発による後背部のアシ原を埋め立てたことが絶滅要因だと考えられる。

■特記事項:本種は東京湾奥部の縄文貝塚からの出土も確認されていることから、戦前まで生息していたと考えられる。

執 筆 者 黒住耐二

文献一覧 12,24





EX R

EX

EX

2020

2010 EX

東京都外 1980年

 $\left(oldsymbol{\cdot}
ight)$

EX

2020

2010 EX

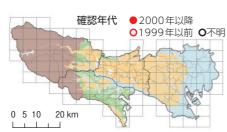


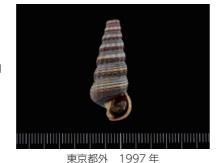
■種の特性と生息状況:海産巻貝類。殻高40mm、殻径14mm 程度の円筒形で、上方へ細くなり、成長すると殻頂部が欠落する。殻色は白色から黒褐色まで変異し、細い色帯を持つことが多い。殻は厚質。各層には、20本程度の縦肋を持ち、7本程度の螺肋との交点は結節を形成し、殻表は布目状となる。殻口外唇は肥厚し、張り出す。戦前に東京湾岸の蒲田周辺からの記録があったが、以降の記録はない。他地域での情報から、汽水域のアシ原の泥底に生息していたと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**:海岸開発による後背部のアシ原を埋め立てたことが絶滅要因だと考えられる。

■特記事項: 千葉県では、現在でもごく僅かに 新たな生息が確認されており、今後、東京都 でも本種が分散してくる可能性は否定できな い。この点からも残存しているアシ原の保全 は重要である。

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 12,24







ヘナタリ 吸腔目 Pirenella nipponica ヘナタリ科

■種の特性と生息状況:海産巻貝類。殻高25mm、殻径12mm 程度の塔形で、厚質、堅固。 螺層に3本の肋を持ち、縦肋と交わり、結節状となる。縫合下の肋が他の2本より太い。通常 肋間は狭く、黒色となる。殻色は、黄色の地に黒色の色線を巡らす。外唇下端は水管部へ伸び る。体層に縦張肋を持つ。東京湾岸から記録されていたが、50年以上確認されていない。他 地域で残存している個体群は泥干潟の潮間帯中部に生息することが知られている。

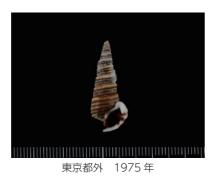
■生存を脅かす要因:海岸開発による干潟の埋め立てが絶滅の要因だと考えられる。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二

文献一覧 12, 14, 24



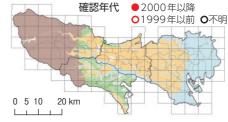


カワアイ 吸腔目 Pirenella pupiformis ヘナタリ科

■種の特性と生息状況:海産巻貝類。殻高35mm、殻径13mm程度の塔形で、厚質、堅固。 螺層に3本の肋を持ち、縦肋と交わり、結節状となる。3本の肋は同程度の太さ。通常肋間は 広く、彩色されない。殻色は、濃褐色の単色。外唇下端は水管部へ伸びない。体層に縦張肋を 持たない。湾奥部の泥質潮間帯中部に生息する。東京都の湾岸部からの記録があったものの、 高度経済成長期以降の記録はなく、50年間に生息は確認されていないため、絶滅と判断した。 ■生存を脅かす要因: 埋め立てによる海岸開発により、本種は絶滅したと考えられる。

■特記事項: 東京都に近接した千葉県市川市からは本種の外来群と考えられるものが定着しており、今後、東京都でも本種が確認される可能性がある。

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 3, 12, 14, 24



吸腔目

ウミニナ科



lacksquare

(•

2020 EX

2010

EX

東京都外 2010年



ウミニナ
Batillaria multiformis

■種の特性と生息状況: 殻高30mm、殻径13mm 程度の塔形で、厚質、堅固。螺層に数本の太い肋を持ち、肋間は狭い。結節は丸い。内唇の滑層瘤は強く、発達する。外唇は湾入しない。体層に縦張肋を持つ。直達発生。内湾奥部の潮間帯の泥底に生息する。干潟産。近似種のホソウミニナは、内唇の滑層瘤は弱く発達せず、体層に縦張肋を持たず、間接発生を行う。東京都の湾岸部からの記録があったものの、50年間に生息は確認されていないため、絶滅と判断した。本種は、潮間帯中部の砂泥質干潟に生息する。

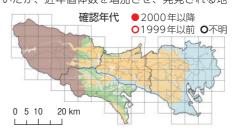
■ 生存を脅かす要因: 埋め立てによる海岸開発により、本種は絶滅したと考えられる。

■特記事項:千葉県では、本種は一時激減していたが、近年個体数を増加させ、発見される地点も増加しているので、今後、東京都でも本 確認年代 ●2000年以降

種が確認される可能性がある。

執 筆 者 黒住耐二

文献一覧 12, 14, 24, 47





EX

東京都外 1975年

 (\bullet)

2020 EX

2010

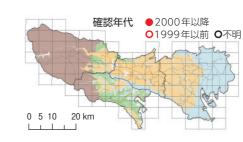
イボウミニナ 吸腔目 Batillaria zonalis ウミニナ科

■種の特性と生息状況:海産巻貝類。殻高30mm、殻径10mm 程度の塔形で、厚質、堅固。 螺層に数本の細い肋を持ち、肋間は広い。結節は尖る。内唇の滑層瘤は弱くレール状。外唇は 湾入する。体層に縦張肋を持たない。東京都の湾岸部からの記録があったものの、50年間以 上生息が確認されていないため、絶滅と判断した。本種は、内湾奥部の潮間帯中部・泥質干潟 に生息する。

■生存を脅かす要因:埋め立てによる海岸開発により、本種は絶滅したと考えられる。 ■特記事項:

執筆者 黒住耐二

文献一覧 12, 14, 24





爬

虫

類

両

生

類

淡水魚類

昆虫

類

殼

類

Ŧ

類

EX R

類

類

貝

類

ケシガイ 有肺目 Carychium pessimum オオカミガイ科

■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類、殻高1.6mm、殻径0.6mm 程度の塔形、やや厚質、螺塔は高く、全体の2/3を占め、側面観は筒型。臍穴は閉じる。殻皮は光沢の弱い黄白色。殻表に微細な成長肋を持つ。外唇は肥厚し、内側に1本の弱い歯を持つ。内唇に1歯がある。殻内部の螺状板は弱く、単純。北海道と琉球列島からも報告されているが、確実な分布としては本州~九州であり、主として落葉広葉樹林の落葉下に生息する。都内では、西多摩の日原鍾乳洞付近から記録されている。高密度になることのない種で、微小なことで生息確認が難しい面もあるが、最近の調査では得られていない。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、降水量減少等の林

床環境の乾燥のような温暖化が影響している 可能性も想定される。

■ 特記事項:

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 31,56 確認年代 ● 2000年以降 ● 1999年以前 ● 不明 0 5 10 20 km



(-)

2020

2010

スジケシガイ
Carychium noduliferum オオカミガイ科

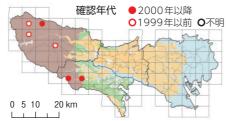
■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。 殻高 2.3mm、 殻径 0.9mm 程度の塔形、やや厚質、螺塔は高く、全体の 2/3 を占め、側面観は筒型。臍穴は閉じる。 殻皮は光沢の弱い淡黄白色。 殻表に明瞭で、やや粗い成長肋を持つ。外唇は肥厚し、内側に 1 本の弱い歯を持つ。内唇に 1 歯がある。 殻内部の螺状板は長く、捩じれは極めて弱い。 北海道と琉球列島からも報告されているが、確実な分布としては本州~九州であり、主として落葉広葉樹林の落葉下に生息する。 都内では、西多摩の日原鍾乳洞付近と八王子市から記録されている。 高密度になることのない種で、微小なことで生息確認が難しい面もあるが、最近の調査では得られていない。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、降水量減少等の林

床環境の乾燥のような温暖化が影響している 可能性も想定される。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 12,24





青梅市 1960 年代

モノアラガイ 有肺目 Radix auricularia japonica モノアラガイ科

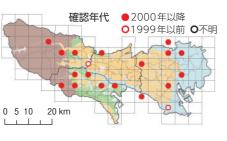
■種の特性と生息状況:淡水産巻貝類。殻高25mm、殻径20mm 程度の卵形、薄質。体層が全体の4/5を占め、螺層は小さく、臍穴は裂け目状。縫合は深い。殻表は平滑で、淡黄褐色の半透明。軸唇はねじれる。フタを持たない。低地部の水田を含む止水域の水草・転石上に生息する。過去には低地部に広く分布し、個体数も多かったが、激減し、都市部では殻口が下方へ広がり、時に外唇部がくびれる外来種のヨソカラモノアラガイが増加している。ただ、人為的撹乱の小さな皇居では本種が比較的多く確認されている。

■生存を脅かす要因:湖沼・河川・湿地の開発と水質汚濁により、絶滅に近い状態になっており、 農薬散布・水田の減少/乾田化が減少の原因と考えられ、工事等に関しては十分な配慮が必要 である。

■特記事項:外来種と競合する以前に激減したと考えられる。近年のモノアラガイの確認データは外来種を示していることがほとんどだと想定される。分布図でも近年のデータがほとんどであるが、詳細な検討は不可能なのでモノアラガイとして記録されているものを示してある。

執 筆 者 黒住耐二

文献一覧 8, 18, 30, 80







カワネジガイ
Camptoceras hirasei ちラマキガイ科

■種の特性と生息状況:淡水産巻貝類。殻高10mm、殻径2.4mm 程度の針状、極めて薄質。 螺層は巻とけ、上部と下部に角を持つ。淡黄白色で、光沢は鈍い。殻表は、やや規則的な成長 助があるものの平滑に見える。止水域の水草等の基物に付着する。東京都では、戦前に蒲田と 赤羽から記録があるものの、以降、戦後の記録はなく、絶滅したと判断できる。

■生存を脅かす要因:湖沼・湿地の開発と水質汚濁により絶滅したと考えられる。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 12,74





 $\overline{(-)}$

 $\overline{(-)}$

|(-)

(-)

EX

2020

 $\overline{}$

(-

(-)

2020 EX

2010 EX

物

藻

類

哺

乳

類

ヒダリマキモノアラガイ

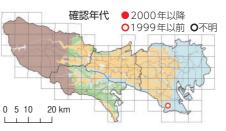
Culmenella prashadi ヒラマキガイ科

■種の特性と生息状況:淡水産巻貝類。殻高6mm、殻径3.4mm程度の左巻、長卵形、薄質。体層が殻のほとんどを占め、螺塔は小さく、臍穴は裂け目状。縫合は深い。殻表にはやや密で、助間の大きく開いた明瞭な螺肋を持つ。濁黄白色。軸唇はねじれず、直線状。フタを持たない。止水域の水草等の基物に付着する。東京都では、戦前に蒲田から記録があるものの、以降、戦後の記録はなく、絶滅したと判断できる。

■生存を脅かす要因:湖沼・湿地の開発と水質汚濁により絶滅したと考えられる。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 12,74





ヒラマキミズマイマイ

Gyraulus chinensis spirillus

有肺目 ヒラマキガイ科

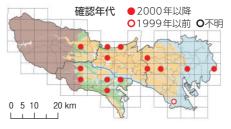
有肺目

■種の特性と生息状況:淡水産巻貝類。殻高1.8mm、殻径6mm 程度の円盤形、やや小型、薄質。淡黄褐色で、弱い光沢を有する。殻表は、ほぼ平滑。初期螺層は上下とも大きく開き、殻径の1/2程度。螺層は体層部でも広がらない。体層周縁に弱い角を持ち、殻皮突起は不明瞭。低地部の水田等の止水域の水草等の基物に付着する。東京都では、過去に記録があった。近年でも各地の環境アセスメントでも確認が散見されるものの、外来種と考えられるものとの殻形態での識別が困難なので、現況は不明である。そのため、分布図では2000年以降がほとんどを占めている。

■生存を脅かす要因:湖沼・湿地の開発と水質汚濁により減少している。農薬散布・水田の減少/乾田化も個体数減少の原因と考えられる。

■特記事項:最近の遺伝子解析の結果と従来からの殻形態に基づいた分類には大きな齟齬が認められるようであり、ここでの取り扱いは過去の報告に依拠している。今後、両者を統一的な分類体系と殻形態での識別点の明示が望まれる。

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 12,78,80







東京都外 1988 年

大水晶/F 1900 平

爬

虫

類

両

生

類

淡水魚類

昆 虫

類

甲

殻

類

于

類

類

類

物

藻

類

哺

乳

類

貝

ハブタエヒラマキ 有肺目 ヒラマキガイ科 Gyraulus illibatus

■ 種の特性と生息状況:淡水産巻貝類。殻高1.2mm、殻径4mm 程度の円盤形、やや小型、 薄質。黄褐色で、光沢はかなり弱い。殻表は、ほぼ平滑。初期螺層は上下とも大きく開き、殻 径の1/2程度。螺層は体層部で広くなる。体層周縁に角を持たず、殻皮突起も不明瞭。戦前に 上野・向島から報告されており、近年でも西多摩の環境調査で記録されている程度である。

■生存を脅かす要因:湖沼・湿地の開発による生息地の消失と水質汚濁により減少したと考え られる。

■特記事項:ヒラマキミズマイマイで記したように、ここでの取り扱いは過去の報告に依拠し ている。戦前には、ヨーロッパから記載された albus として報告されたが、その後、埼玉県大

宮 (Onuva) をタイプ産地とする illibatus と された。

執 筆 者 黒住耐二

(文献一覧) 70, 74, 78

●2000年以降 O1999年以前 O不明

有肺目

ヒラマキガイ科



DD





トウキョウヒラマキ Gyraulus tokyoensis

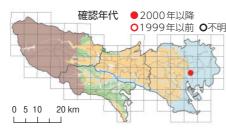
■種の特性と生息状況:淡水産巻貝類。殻高1.9mm、殻径7.5mm 程度の円盤形、やや大型、 薄質。淡黄褐色で、弱い光沢を有する。殻表は、ほぼ平滑。初期螺層は上下とも大きく開き、 殻径の1/2程度。螺層は体層部でも広がらない。体層周縁に強い角を持ち、殻皮突起は明瞭。 東京都を含め日本各地での記録は少ないものの、生息環境は低地部の止水域である。東京・皇 居(宮城前・楠公銅像前小池)をタイプ産地として記載され、比較的近年にも皇居から確認さ れている。しかし、他からは確実な記録はない。

■生存を脅かす要因:湖沼・湿地の開発による生息地の消失と水質汚濁により減少したと考え られる。

■ 特記事項: ヒラマキミズマイマイで記したよ うに、ここでの取り扱いは過去の報告に依拠 している。

執 筆 者 黒住耐二

文献一覧) 8, 73, 74, 78





東京都外 2005年

ミズコハクガイ 有肺日 ヒラマキガイ科 Gyraulus soritai

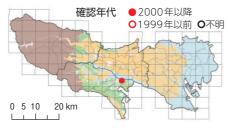
■ 種の特性と生息状況:淡水産巻貝類。殻高1.5mm、殻径4mm 程度の円盤形、やや小型、 薄質。淡黄褐色で、弱い光沢がある。殻表には、微細な成長肋が明瞭。初期層の上面は窪まず、 平巻状で、下面は広く開き、殻径の1/3程度の臍孔がある。螺層は体層側でも広がらない。体 層周辺は丸く、殻皮突起を持たない。湿地や水田・休耕田等の水草の茎や葉裏で見られる。東 京都では、多摩市の休耕田の湿性環境からのみ知られている。2020年夏季の現地調査では、 本自然保全地域の乾燥化が進んでいると思われたが、高密度ではないもののミズコハクガイの 牛息を確認することができた。

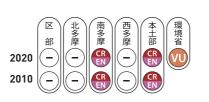
■生存を脅かす要因:湖沼・湿地の開発による生息地の消失と水質汚濁により減少したと考え られる。

■特記事項:

(執筆者)黒住耐二

(文献一覧) 50







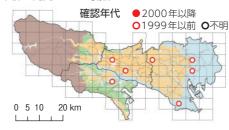
ヒラマキモドキ 有肺目 ヒラマキガイ科 Polypylis hemisphaerula

■種の特性と生息状況:淡水産巻貝類。殻高2.4mm、殻径6mm 程度の円盤形、中型、薄質 だが堅固。淡黄褐色で、光沢は強い。殻表は、ほぼ平滑。殻頂部はほぼ平巻で、僅かにくぼむ。 底面は平坦で、角を持ち、臍孔は狭いが明瞭。殻口内部に歯状突起を持つ。低地部の水田等の 止水域の水草等の基物に付着する。区部では石神井・向島等で過去に記録があるものの、50 年以上確認されていない。北多摩・南多摩でも僅かな地点でしか確認されていない。

■生存を脅かす要因:湖沼・湿地の開発による生息地の消失と水質汚濁により減少したと考え られる。

■特記事項:今後新たに、他地域の例からの外来群が発見される可能性もある。

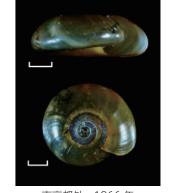
執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 12,74,80



有肺目

オカモノアラガイ科





東京都外 1966年



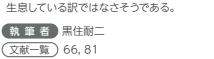
コウフオカモノアラガイ Neosuccinea kofui

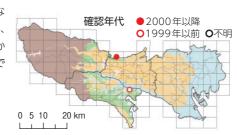
■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高8mm、殻径5.8mm 程度の亜菱形で、背面はやや 膨らむ。薄質。体層がほとんどを占め、螺塔は小さく、突出する。半透明淡黄褐色。殻形態の 類似した別属のヒメオカモノアラガイとは、本種が生殖器に盲管を持つことでのみ識別される という。関東地方から川梨県でのみ記録されており、河川敷等のやや湿性な草地に生息してい る。都内では、現在までの所、北多摩と南多摩の数か所で確認されている。

■生存を脅かす要因:河川や湿地の開発による生息場所の消失や湿性環境の変化が減少の要因

■ 特記事項: 本種と類似したヒメオカモノアラガイとの殻形態だけでの識別はほぼ不可能であり、

解剖学的な検討が必要なため、確認地点が少な い可能性がある。ただ、解剖まで行った例でも、 コウフオカモノアラガイと認められた例は僅か であることから、広範囲に、比較的高い密度で 生息している訳ではなさそうである。







町田市 1998年



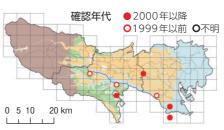
ナガオカモノアラガイ 有肺日 オカモノアラガイ科 Oxyloma hirasei

■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高12mm、殻径7mm 程度の長卵形、背腹に扁平、著 しく薄質。螺塔は極めて小さく、体層がほとんどを占める。半透明淡黄褐色。殻表はやや光沢 を有し、平滑。殻口縁は肥厚・反転しない。淡水産のモノアラガイ類に殻形態が近似するが、 軸唇が肥厚せず、ねじれず、生体の眼は触角の先端にある。北海道からも記録があるが、主に 関東以西の本州~四国・九州に分布し、水際の植物や構造物表面に生息している。都内では、 多摩川の河川敷や過去には大田区蒲田から記録されており、多摩川水系では現在も生息確認の 報告がある。

■生存を脅かす要因:湖沼・河川や湿地の開発による牛息場所の消失や湿性環境の変化が減少 の要因となる。

■特記事項:近年、人為的攪乱の大きな河川や 水体で本種が確認されており、詳細な検討が 行われていないものの、外来の可能性も否定 できないことから、このような環境で得られ た情報は評価対象外とした。

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 66,81





東京都外 2009年

類

類

水魚類

昆

虫

類

甲

殻

類

Ŧ

類

物

藻

哺

乳

類

類

爬

虫

類

両

類

甲

貝

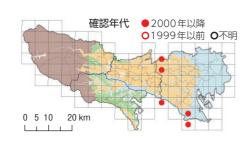
スナガイ 有肺目 スナガイ科 Gastrocopta armigerella

■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高2.2mm、殻径1.0mm 程度の蛹形、やや薄質、堅固。 臍穴はわずかに開く。体層周縁は丸い。縫合はやや深い。殻表はほぼ平滑で、弱い光沢がある。 半透明白色。外唇は肥厚する。殻□内に多くの歯を持ち、内唇の軸唇側に下位壁唇板を有する ことが特徴である。北海道南部(島嶼)~琉球列島に広く分布し、主に海岸部の草地や灌木林 帯の落葉下に生息する。都内では、大田区や世田谷区等の河川敷の草地で確認されている。

■生存を脅かす要因:河川敷を改変するような河川開発が行われると、本種の好適な湿度環境 が一時的にでも変化し、激減や絶滅してしまう恐れがある。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧)



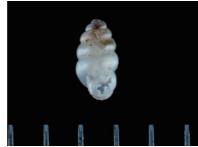
有肺目

2020

2010

|(-)|

スナガイ科



DD

渋谷区 2002年

(-)

チョウセンスナガイ Gastrocopta coreana

■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。 殻高 2.2mm、 殻径 1.0mm 程度の蛹形、やや薄質、堅固。 臍穴はわずかに開く。体層周縁は丸い。縫合はむしろ浅い。殻表はほぼ平滑で、弱い光沢があ る。半透明白色。外唇は肥厚する。殻口内に多くの歯を持ち、内唇の軸唇側に下位壁唇板が欠 落することが特徴である。関東地方から九州の石灰岩地、および河川敷や海岸部から知られて おり、やや乾燥した落葉下に生息する。都内では、西多摩の石灰岩地と多摩川の河川敷の草地 で確認されている。

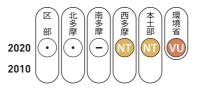
■生存を脅かす要因:河川敷を改変するような河川開発が行われると、本種の好適な湿度環境 が一時的にでも変化し、激減や絶滅してしまう恐れがある。また山地では森林伐採・石灰採掘

等も減少の要因と考えられる ■特記事項:海岸部や都市部では、本種に同定 される下位壁唇板が欠落した群が認められてい るが、今後スナガイとの詳細な検討が望まれる。

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 46, 48, 61, 66







クチマガリスナガイ 有肺日 スナガイ科 Bensonella plicidens

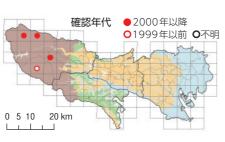
■ 種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高2.5mm、殻径2.0mm 程度の円錐形、やや厚質、 堅固。臍穴は狭いが開く。体層周縁は丸い。縫合はむしろ浅い。殻表はほぼ平滑で、弱い光沢 がある。淡褐色。外唇は強く肥厚する。殻口内に多くの歯を持つ。関東地方から九州の石灰岩 地から知られており、石灰岩露頭の凹所に高密度で生息することが多い。都内では、西多摩の 日原・倉沢・神戸・養沢の石灰岩地から知られており、過去には多数個体が確認されていたが、 近年の調査では個体数は決して多くはなかった。

■生存を脅かす要因:森林伐採による石灰岩露頭表面の乾燥化や石灰採掘での微小生息環境の 消失も減少の要因となる。

■特記事項:本土部2020年版のキバサナギガ イ科は誤りで、スナガイ科に属する。

執筆者 黒住耐二

文献一覧 31, 56, 58, 60





オキノエラブキバサナギガイ類似種

Vertigo sp. cf. okinoerabuensis

される。

執筆者 黒住耐二

文献一覧 24, 46, 50, 76

有肺目 キバサナギガイ科

■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。草原的な環境にすむ。殻高1.7mm、殻径1.0mm 程度の蛹形、殻はや や薄質。臍孔は開く。縫合はやや深い。殻表はほぼ平滑で、弱い光沢がある。半透明褐色。外唇は中央部の くびれはかなり弱く、外側に肥厚部はない。殻口の外唇下部の歯は弱く、短い。放棄水田や湿性の草地で確 認されることが多い。都内では多摩市の休耕田で生息が確認されているが、府中市四谷の多摩川河川敷で漂 着した死殻が得られており、周辺に生息地が存在するものと考えられる。ただ、極めて報告地点は少なく、



多摩市 2012年

た当初はヤマトキバサナギガイとされたが、後にキ ●2000年以降 ○1999年以前 ○不明 バサナギガイと修正された。さらに新しい研究では、 連光寺・若葉台の群はオキノエラブキバサナギガイ 類似種とされた。府中市のものも、キバサナギガイ 0 5 10 20 km

ナタネキバサナギガイ Vertigo ovata

と報告されているが、同種と考えて取り扱った。

■ 特記事項:連光寺・若葉台里山保全地域で確認され

有肺目 キバサナギガイ科

■ 種の特性と生息状況: 湿性な環境にすむ陸産巻貝類。 殻高 2.1 mm、 殻径 1.4 mm 程度の卵形、 殻はやや厚 質。臍孔は開く。縫合はやや浅い。殻表はほぼ平滑で、光沢がある。半透明褐色。外唇は中央部にくびれを 持ち、外側に明瞭な肥厚部がある。殻口の外唇下部の歯は強く、やや短い。北海道~九州に分布する。現在 では、放棄水田等のガマ等の植物の枯れた葉裏等で確認されることが多い。都内では、武蔵野市及び三鷹市 の井の頭公園、多摩市の休耕田、府中市・あきる野市の多摩川河川敷から報告されている。ただ、いずれの 地点でも、個体数はかなり少なく、一部の地域では湿地の乾燥化が見られ、個体数が減少しているようであ る。

■ 生存を脅かす要因: 放棄水田等の湿地の開発が減少の要因である。周辺からの安定した水量の保持も不可

欠で、河川敷の氾濫原に生息地が存在する可能性もあり、河川敷の大規模造成も生息に影響を与えると想定

■生存を脅かす要因: 放棄水田等の湿地の開発が減少の要因である。周辺からの安定した水量の保持も不可 欠で、水量が減少し、乾燥化による植生の変化等も生息に大きく影響する。

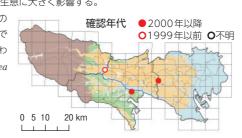
■特記事項:陸産貝類の調査精度の向上や放棄水田の ような調査対象地域の拡充等もあり、近年、僅かで はあるが確認地点自体は増加しているようにも思わ れる。最新の研究により、種小名を、従来の eogea から ovata とした。

執 筆 者 黒住耐二

文献一覧 46, 50, 51, 66, 76

ナタネモドキ

Pyramidula conica







東京都外 2009年

(-)

2020

2010

有肺日 ナタネモドキ科

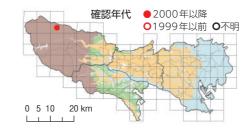
■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高2.0mm、殻径2.4mm 程度の低い円錐形、やや薄 質だが、堅固。螺塔は高まり、縫合は浅い。螺層数は多い。体層周縁は弱く角張る。臍孔は広 く開く。濃褐色で、殻表には弱い成長肋を持つが平滑に見える。外唇は肥厚、反転しない。関 東地方~本州・四国から報告されており、石灰岩露頭の表面凹所に生息する。これまで東京都 から記録されていなかったが、最近の調査で西多摩の倉沢鍾乳洞付近から新鮮な死殻が採集さ

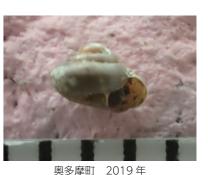
■生存を脅かす要内:森林伐採による石灰岩露頭表面の乾燥化や石灰採掘での微小牛息環境の 消失も減少の要因となる。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二

(文献一覧) 31, 33





哺 類

鳥 類

爬 虫 類

両

生

類

淡水魚類

昆

虫

類

甲

殻

類

Ŧ

類

虫 類

爬

物

藻

類

哺

乳

類

類

両 生

淡水魚類

昆 虫

甲 殻

類

ク Ŧ

オオギセル Megalophaedusa martensi

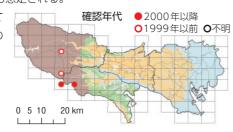
■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高 40mm、殻径 9.5mm 程度の左巻、細長い搭型、厚 質。褐色で、個体により濃淡がある。殻□は卵円形、殻□縁は体層から遊離しない。上板は明 らかで、下板は小さく斜めに奥部に続き、下軸板は時に殻□縁に現れる。腔壁は主壁と極めて 短く、下部に連続した点状の壁からなる。関東地方西部から中国地方東部、四国北部に分布し、 主に落葉広葉樹林の林床に生息する。都内では、西多摩の養沢鍾乳洞・市道山と南多摩の高尾 山から記録があり、高尾山では少ないながら、近年も確認されている。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、降水量減少等の林 床環境の乾燥のような温暖化している可能性も想定される。

■特記事項:目黒区で、伊豆由来と考えられて いる移入群が見られた例が知られているもの の、現況は不明である。

執 筆 者 黒住耐二

文献一覧 1, 10, 21, 57, 59



有肺目

有肺目

キセルガイ科

2020

2010

2020

2020

2010

キセルガイ科



八王子市 1984年

オクガタギセル Megalophaedusa dorcas

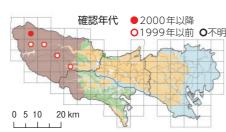
■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。 殻高 27mm、 殻径6mm 程度の蛹形、厚質、淡黄褐色の 殻皮を持つ。螺塔部は太く、殻頂は丸みを帯びる。殻□は外側へ張り出さず、丸く、殻□縁は 体層に付く。殻口の上板に刻みを持たず、下板はやや突出し、上板との半分の長さで、上板側 は尖らない。下軸板は不明瞭で、殻口に出現しない。腔壁は主壁と右側面の点状の壁からなる。 東京都西部~中部地方に分布し、人為的攪乱の少ない落葉広葉樹林林床に生息する。都内では、 西多摩の日原・養沢等の鍾乳洞付近や御岳等、南多摩の今熊山から記録されており、過去のコ レクションには、養沢鍾乳洞で採集された多数個体が含まれていた。しかし、最近の調査では 確認できた個体数は極めて少なかった。

■ 生存を脅かす要因: 森林伐採等の各種開発が 減少の要因と考えられるが、降水量減少等の 林床環境の乾燥のような温暖化している可能 性も想定される。

■ 特記事項

執筆者 黒住耐二

(文献一覧) 31, 56, 57, 58





奥多摩町 1980年

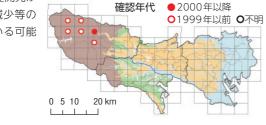
オオトノサマギセル 有肺日 キセルガイ科 Megalophaedusa rex

■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高32mm、殻径8.4mm 程度の左巻、細長い搭型、厚 質。濃い栗色で、強い光沢を持つ。巻数は多く、殻頂に向かって直線的に細まる。殻口は卵円 形で、殻口縁は体層から遊離しない。上板は明らかで、斜め。下板は尖らず、僅かに全面から 見られる位置に存在する。下軸板は殻口に表れない。腔壁は基本的には短い主壁と平行するや や長い複数の上腔壁からなる。東京都西部~静岡県東部に分布し、人為的攪乱の少ない落葉広 葉樹林林床に生息する。都内では、日原・養沢の両鍾乳洞や御岳山等から記録されており、過 去のコレクションには、養沢鍾乳洞と御岳山の多数個体が含まれていた。しかし、最近の調査 では前者では確認できず、後者でも僅かに見られただけであった。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が 減少の要因と考えられるが、降水量減少等の 林床環境の乾燥のような温暖化している可能 性も想定される。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二 文献一覧 31, 56, 57, 58







奥多摩町 1980年

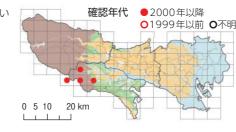
ツメギセル 有肺目 キセルガイ科 Megalophaedusa rhopalia

■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高20mm、殻径4.3mm 程度の左巻、細長い紡錘形 厚質、淡黄白色だが、殻皮は禿げやすい。巻数は多く、上部螺層は細まる。殻□は卵円形で、 殻□縁は体層から遊離しない。上板は明らかで、斜め。下板は尖らず、奥まった位置に存在す る。下軸板は殻□に表れない。腔壁は基本的には主壁と平行する短い上腔壁および長めの月状 壁からなる。東京都~静岡県の主に落葉広葉樹林の倒木下に生息する。都内では、南多摩の高 尾山と八王子市の数カ所から記録されており、近年でも個体数は少ないながら確認されている。 ■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、降水量減少等の林 床環境の乾燥のような温暖化している可能性も想定される。

■特記事項:西多摩の日原からも記録されてい るが、産地の誤りだと考えられる。

執 筆 者 黒住耐二

文献一覧 1, 24, 29, 42









ヤグラギセル 有肺目 キセルガイ科 Megalophaedusa yagurai ■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高12mm、殻径3mm 程度の左巻、筒型、厚質、紅褐

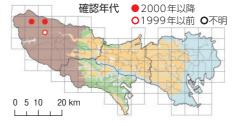
色。巻数は少なく、殻頂は太く、円い。殻口は洋梨型で、殻口縁は体層から遊離しない。上板 は明らかで、斜め。下板・下軸板は殻口奥部に位置し、前面からは見えにくい。腔壁は主壁と 平行する短い上腔壁のみの場合がほとんどである。東京都~埼玉県の石灰岩地域に分布し、石 灰岩の凹所に生息している。都内では、日原・倉沢両鍾乳洞とその周辺地域からのみ知られて いる。極めて限られた分布域と生息環境を持つ種であるが、現在でも古い石垣の間を含め、ま だ生息が確認されている。

■生存を脅かす要因:森林伐採および石灰岩採掘等の各種開発が減少の要因と考えられるが、

降水量減少等の林床環境の乾燥のような温暖 化している可能性も想定される。

■特記事項:日原が本種のタイプ産地である。

執筆者 黒住耐二 (文献一覧) 31, 32, 56





奥多摩町 1984年

DD 2020 DD (\bullet) 2010

ヒロクチコギセル 有肺日 キセルガイ科 Reinia variegata

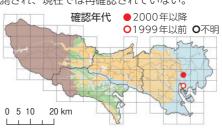
■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。 殻高 10mm、 殻径 3.1mm 程度の左巻、 筒型、 やや薄質 淡褐色の地色に黄白色の不規則な放射彩を持つ。巻数は少なく、側面観は少し膨らむ。殻口は 円形で、周縁部は体層との付着部で途切れる。殻口縁は体層から遊離しない。上板は極めて弱 く、下板・下軸板も奥部に位置し、前面からは見えにくい。全ての腔壁を欠く。東北地方(金 華山)、主に伊豆諸島を含む関東地方から四国、九州の海岸域のやや開けた樹林に分布し、都 内では皇居と港区芝の記録があり、皇居では現在も生息が確認されている。

■生存を脅かす要因:都内では、ある程度人為的に管理された林で見られていることから、生 息地の開発や樹木伐採で、生息場所自体の消失や乾燥化で一挙に減少する可能性が高い。港区 芝の標本は、50年以上前に採集されたものと推測され、現在では再確認されていない。

■特記事項:本土部の個体群は、植樹等が行わ れた地域に散在して確認されていることから、 伊豆諸島から近世・近代に花木と共に持ち込 まれた移入群の可能性もある。

執 筆 者 黒住耐二

文献一覧 4, 7, 8, 11, 24





792 793

類

爬

虫

類

両

生

類

淡水魚類

昆 虫

類

甲

殻

類

于

類

哺

乳

類

物

甲

貝

類

795

794

オオコウラナメクジ オオコウラナメクジ科 Nipponarion carinatus

■種の特性と生息状況: 陸産ナメクジ類。伸長時の体長は3.5cm 程度。淡濁淡褐色で、濃褐 色のマダラ斑がまばらにある。背面には細かく、やや密な皺が明らか。背面に膜状のコウラが 内在している楯板があり、呼吸口は右側後部に位置している。楯板の後端から尾端に強く明瞭 な角(稜)が特徴。本州~九州の主に人為的攪乱のない落葉樹林に分布し、倒木や落葉下に生 息する。都内では、比較的近年に南多摩の裏高尾で撮影された写真によって東京都に分布する ことが明らかになったが、現時点ではこの1例のみが知られている。全国的にも個体数は稀な 種である。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、降水量減少等の林

床環境の乾燥のような温暖化が影響している 可能性も想定される。

■特記事項:今後の詳細な検討によっては、所 属する科が変更になる可能性も高い。

執筆者 黒住耐二 (文献一覧) 2, 29, 62, 71



有肺目

有肺目

ベッコウマイマイ科

2020

2010

2020

2010

2010

DD

東京都外 1976年

(-)

DD

DD

ヒラベッコウ Bekkochlamys micrograpta

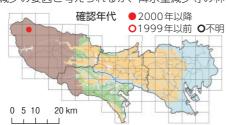
■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高3.5mm、殻径6.5mm 程度の円盤型で、螺塔は極 めて低く、僅かに認められる程度。縫合は弱くくびれる。螺層数はやや少なく、体層に向かっ て緩やかに広がる。薄質。明るい栗色。臍孔は狭いが明瞭に開き、その周囲は他所と同色。殻 底には肉眼では観察できない微細な螺溝を密に有し、上面にはほぼ螺溝を欠く。全体として平 滑に見え、光沢を持つ。体層は平たく、周縁丸い。底面は膨れない。本州~九州の人為的攪乱 の少ない広葉樹林の林床に生息し、都内では日原等の西多摩から記録され、最近の調査でも不 確実ながら確認されている。

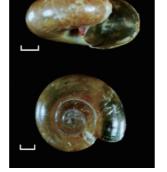
■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、降水量減少等の林

床環境の乾燥のような温暖化している可能性 も想定される。

■特記事項:

執筆者 黒住耐二 (文献一覧) 31, 56, 61





東京都外 1980 年代以前

カントウベッコウ 有肺日 ベッコウマイマイ科 Bekkochlamys septentrionalis

■ 種の特性と生息状況: 陸産巻目類。 殻高 9.5mm、 殻径 15mm 程度の円盤型で、 螺塔は低い ながら、明瞭。縫合は僅かにくぼむ。螺層数は少なく、体層では螺層は広がる。薄質。淡緑黄 色。臍孔は狭いが明瞭に開く。殻表には成長肋もほとんど認められず平滑で強い光沢を持つ。 体層は高くなく、周縁丸い。底面は弱く膨れる。生時には、黒褐色の外套膜で殻を包む。関東 地方~中部地方東部に分布し、落葉広葉樹林の林床・落葉・倒木下に生息する。都内では日原 鍾乳洞付近・御岳山等の西多摩各地で記録されていたが、最近の確認記録は見いだせていない。 一方、最近でも南多摩の陣馬山周辺で確認されている。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、降水量減少等の林

床環境の乾燥のような温暖化が影響している

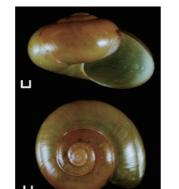
可能性も想定される。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二

(文献一覧) 29, 31, 56, 57, 58





東京都外 1980 年代以前

スカシベッコウ 有肺目 ベッコウマイマイ科 Bekkochlamys serena

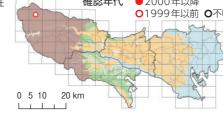
■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高3.3mm、殻径7mm 程度の円盤型で、螺塔は低い ながら、明瞭。縫合は弱くくびれるが、強く折れ込まない。螺層数はやや多く、体層でも螺層 は広がらない。薄質。淡黄褐色。臍孔は狭いが明瞭に開き、その周囲も僅かに淡くなるものの 他所と同じ色彩で、白色とはならない。殻表には成長肋もほとんど認められず平滑で強い光沢 を持つ。体層は高くなく、周縁丸い。底面は弱く膨れる。東北地方〜関東地方に分布し、落葉 広葉樹林の林床・落葉下に生息する。都内では日原鍾乳洞付近で、約半世紀前に得られた標本 が確認されているのみで、それ以降の記録は確認できなかった。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、降水量減少等の林

床環境の乾燥のような温暖化している可能性 も想定される。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 31





有肺目

有肺日

シタラ科

シタラ科



 $\overline{(}$

 $\overline{}$

2020

2010

東京都外 1966年

2020 (\cdot) (-)2010

レンズガイ Otesiopsis japonica

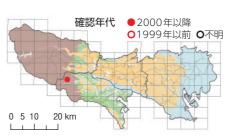
■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高8mm、殻径11mm 程度のそろばん玉型。縫合はくびれず、体層 周縁にやや太い竜骨状の稜が明らかである。螺層数はやや多く、薄質。淡黄褐色。臍孔は狭いが明瞭に開く。 殻表には粗くて弱い成長肋が存在し、光沢を持つ。底面は弱く膨れる。関東地方南部・近畿地方の限られた 山塊と九州中南部に分断されて分布する。主に自然度の高い落葉樹林域林床の倒木や落葉下に生息している。 東京都では八王子市の石灰岩地において、2019年に新鮮な死殻1個体が確認され、東京都にも生息してい たことが確認された。しかし、それ以前や以降の調査で得られておらず、絶滅の危険性が高いと判断した。 ■生存を脅かす要因:石灰岩の採掘や森林伐採による森林環境変化。森林伐採等の各種開発が減少の要因と 考えられるが、降水量減少等の林床環境の乾燥のような温暖化が影響している可能性も想定される。

■特記事項:レンズガイは周辺の各県(埼玉・神奈川・千葉)から知られていたが、これまで東京都からの 記録はなかった。この種は森林性の土着種であり、

移入の可能性は考えられない。隣接の埼玉県では、 絶滅と評価されており、これまで知られていなかっ たことから、極めて高いランクとした。

執 筆 者 黒住耐二





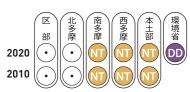
確認年代 ●2000年以降

○1999年以前 ○不明



八王子市 2019年

2010





檜原村 1980 年代以前



Japanochlamys hakonensis

■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。 殻高 4 mm、 殻径 6 mm 程度の円錐形で、 螺塔はやや高い。 螺層の膨らみは弱く、縫合はほとんどくぼまない。ほぼ直線的に殻頂に至る。螺層数は多く、 体層でも螺層は広がらない。薄質。淡栗色。臍孔は狭いが明瞭に開き、軸唇に覆われる。殻表 には成長肋もほとんど認められず平滑で強い光沢を持つ。体層はやや高く、周縁に鈍いが明ら かな角を持つ。底面は膨れる。関東地方・伊豆諸島北部~中部地方東部に分布し、広葉樹林の 林床落葉下生息する。都内では、日原等の西多摩各地と南多摩の高尾山から記録されており、 現在でも低密度ながら確認されている。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、降水量減少等の林

床環境の乾燥のような温暖化している可能性 も想定される。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二

(文献一覧) 24, 29, 31, 56, 57

爬

虫

類

両

生

類

淡水魚類

昆

虫

類

甲

殻

類

于

類

類

物

藻

類

哺

乳

類

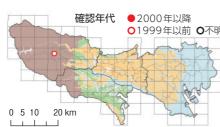
ハクサンベッコウ 有肺目 シタラ科 Nipponochlamys hakusanus

■ 種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高3.5mm、殻径5mm 程度の円盤型で、螺塔は低い ながら、明瞭。縫合はくびれ、やや強く折れ込む。螺層数はやや少なく、螺層は体層に向かっ て広がる。薄質。明るい栗色。臍孔は狭いが開き、その周囲の色彩は他と変わらない。殻表に は肉眼では観察できない程度の極めて細かく密な成長肋を有するが、平滑に見え、弱い光沢が ある。体層は高く、周縁丸い。東北地方~中国地方に分布し、ブナ林を中心とした落葉広葉樹 林の倒木・落葉下に生息する。都内では、御岳から記録されている。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、降水量減少等の林 床環境の乾燥のような温暖化している可能性も想定される。

■ 特記事項: ハクサンベッコウとして報告され ているものには複数の隠ぺい種が含まれてい るようで、類似種との分類学的再検討が行わ れておらず、減少していると考えられるが、 詳細は今後の検討に待ちたい。

執筆者 黒住耐二 (文献一覧) 5.57





有肺目

有肺日

シタラ科

シタラ科





東京都外 1966年





東京都外 2011年

キヌツヤベッコウ Nipponochlamys semisericata

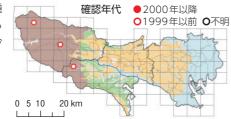
■ 種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高3.5mm、殻径5.2mm 程度のソロバン玉型で、螺 塔は低いながら、明瞭。縫合は僅かにくびれる。螺層数はやや少なく、螺層は体層に向かって 少し広がる。薄質。濃い栗色。臍孔は開くが、軸唇に少し覆われる。殻表の成長肋は不明瞭で、 全体的に絹状の弱い光沢を持つ。体層上面にやや密な弱いシワ状の盛り上がりがある。体層は 高く、周縁に弱いながら、明らかな角があり、体層底面は良く膨らむ。本州(関東地方以西) ~九州に分布する。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下に生息する。都内では過去には西多摩 の日原・御岳・刈寄山から記録されているものの、近年の報告はない。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、降水量減少等の林 床環境の乾燥のような温暖化している可能性も想定される。

■ 特記事項:ハクサンベッコウと同様に、本種 も類似種との分類学的再検討が行われておら ず、減少していると考えられるが、詳細は今 後の検討に待ちたい。

執筆者 黒住耐二

文献一覧 6,31,56,57,59



ヒゼンキビ Parakaliella hizenensis

■ 種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高1.7mm、殻径2.1mm 程度の低い円錐形、薄質。 螺塔はやや低く、殻頂に向かって直線的に細まる。各層のふくらみは弱く、縫合は浅い。螺層 数はやや多い。体層周縁には角を持たず、丸い。臍孔は狭く開く。黄褐色、殻表状面には微細 な彫刻を持つが、全体に平滑に見え、弱い光沢がある。体層底面は膨らむ。本州(東北地方以 南) ~九州に分布する。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下に生息する。都内では西多摩の日 原・倉沢両鍾乳洞と南多摩の八王子市から確認されているものの、他地域での分布状況から、 都内でも未確認の地域も多いと考えられる。

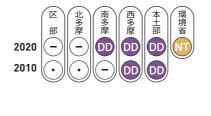
■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、降水量減少等の林

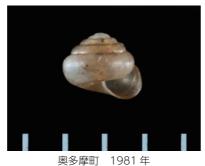
床環境の乾燥のような温暖化している可能性 も想定される。

■ 特記事項: 本種は、比較的近年に再認識され るようになった種であり、過去の記録は少ない。

(執筆者)黒住耐二 (文献一覧) 29, 31







ヒメハリマキビ Parakaliella pagoduloides

有肺目 シタラ科

有肺目

有肺目

シタラ科

シタラ科

確認年代 ●2000年以降

2020 ال الله

はやや多い。体層周縁には極めて弱く鈍い角を持つが、全体としては丸い。臍孔は狭く開き、 軸唇で覆われる。淡褐色、殻表状面には微細な彫刻を持つが、全体に平滑に見え、弱い光沢が ある。体層底面は膨らむ。本州(関東地方以西)、四国に分布する。主に自然度の高い森林の 倒木や落葉下に生息している。都内では港区の自然教育園、村山貯水池、若葉台連光寺の保全 地区、日原で確認されているものの、皇居や高尾山等では記録されていない。東京都では、以 ○1999年以前 ○不明

東京都外 2009年

 $\overline{(-)}$ 2020 (\bullet) <u>(-</u> 2010

カサネシタラガイ

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が

減少の要因と考えられるが、降水量減少等の

林床環境の乾燥のような温暖している可能性

Sitalina insignis

執筆者 黒住耐二

(文献一覧) 9,31,56

も想定される。

■特記事項:

■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。 殻高 1.7mm、殻径 2mm 程度の高いソロバン玉形、薄質。 螺塔は高く、各層は僅かに膨らみ、縫合はやや深くくぼむ。螺層数は少ない。体層周縁に明瞭 で強い角を持ち、突出する。臍孔は閉じる。淡褐色、殻表上面には密で弱いシワ状彫刻を持つ 以外は平滑で、光沢のない殻皮におおわれる。体層底面はほとんど膨らまない。本州・四国・ 九州に分断された分布を示し、主にブナ林の湿潤な林床下に生息する。都内では、御岳から1 記録があるだけである。

0 5 10 20 km

■ 種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高1.8mm、殻径1.5mm 程度の高い円錐形、薄質。

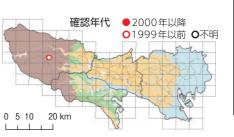
螺塔は高く、弧を描いて丸い殻頂に向かう。各層のふくらみはやや強く、縫合は深い。螺層数

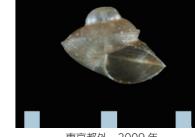
前から低密度であった可能性も想定されるので、このことを考慮してランクを決定した。

■ 生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられ、特に自然度の高い大径 木の存在する森林が消失すると絶滅してしまうかもしれない。また降水量減少等の林床環境の 乾燥のような温暖化が影響している可能性もあろう。

■特記事項:御岳の群には、モロハカサネシタ ラガイという名が与えられているが、正式な 記載はなく、ここではカサネシタラガイとし た。また属名は Coneuplecta を用いるべきだ と考えているが、ここでは従来の見解のまま とした。

執筆者 黒住耐二 (文献一覧) 67





東京都外 2009年

2010

ウメムラシタラガイ

Sitalina japonica

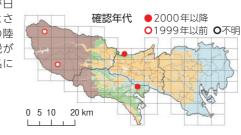
■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高1.5mm、殻径2.1mm 程度の低円錐形、薄質。体 層周縁はやや強い角を持つ。縫合は浅い。淡黄褐色で、光沢はなく、殻表に数本の螺状肋を持 つ。外唇は肥厚・反転しない。本州(関東地方以西)~九州に分布し、林床の落葉下に生息す る。山地部から丘陵部の林縁部に生息しており、東京都では区部と西多摩では減少傾向のよう であったが、北・南多摩では新たに確認された。

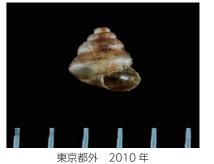
■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が生存脅かすと考えられるが、現在知られている 生息地での開発の影響は小さいのかもしれない。ただ、降水量減少等の林床環境の乾燥のよう な温暖化が影響している可能性も想定され、生息地の面積が小さい地域では、この影響が強く 懸念される。

■ 特記事項: 本種は従来、原稿名 (MS) が日 原をタイプ産地として正式に記載されたとさ れてきたが、最近では韓国南岸の巨文島の陸 産貝類相を報告したリスト中の1行の解説が 原記載に相当すると捉えられている。属名に 関しては、カサネシタラガイも参照のこと。

執筆者 黒住耐二

(文献一覧) 7, 8, 29, 56, 58





797 796

類

Ŧ

貝

爬

虫

類

両

生

類

淡水魚類

昆

虫

類

甲

殻

類

于

類

類

物

藻

類

哺

乳

類

類

貝

類

オオウエキビ 有肺目 シタラ科 Trochochlamys fraterna

■ 種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高3.0mm、殻径2.0mm 程度の蛹形、薄質。螺塔は 高く、各層はやや膨らみ、体層周縁にやや強い角を持つ。臍穴は開く。縫合は浅い。黄褐色で、 やや光沢を持ち、殻表は平滑。外唇は肥厚、反転しない。林床のリター下に生息する。本州(関 東地方以西) ~九州に分布し、都内では、西多摩の山地部石灰岩地・日原から連光寺・若葉台 里山保全地域を含む南多摩、都内でも皇居で確認されている。特に、皇居では比較的高密度で、 21世紀でも減少は見られていないようである。

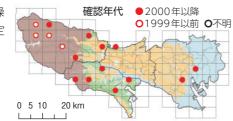
■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられ、丘陵部では自然度の高 い森林が小面積のため、林縁部の下草刈り等による林床の変化を生じさせないようにする必要

がある。また降水量減少等の林床環境の乾燥 のような温暖化が影響している可能性も想定 される。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二

(文献一覧) 1, 8, 31, 56, 57, 58



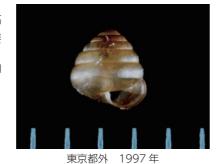
有肺目

有肺日

シタラ科

シタラ科







タカキビ

Coneuplecta praealta

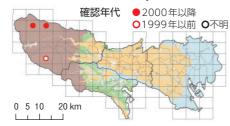
■ 種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高3.5mm、殻径2.5mm 程度の高い円錐形、薄質。 体層周縁にわずかに角を持つ。縫合は浅い。淡黄褐色で、殻表はほぼ平滑で、光沢を有する。 外唇は肥厚・反転しない。主に林縁の広葉樹の葉裏で見られることが多い。本州(関東地方以 西) ~九州に分布し、都内では西多摩の山地部の石灰岩地で記録されている程度である。

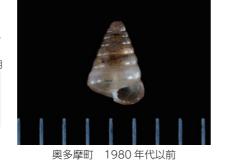
■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられ、特に林縁部低木の除去 の影響は大きいと想定される。また、降水量減少等の林床環境の乾燥のような温暖化が影響し ている可能性も想定される。

■特記事項:本土部2020年版レッドリスト公表時には、属名を Trochochlamys としていたが、 上記の属名に変更されている。

執筆者 黒住耐二

(文献一覧) 31, 56, 58







ヒメカサキビ

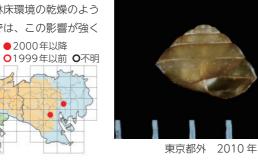
Trochochlamys subcrenulata

■ 種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。 殻高 2.2mm、 殻径 3.0mm 程度のソロバン玉形、 薄質。 体層周縁に強く突出した角を持つ。臍穴は開く。縫合は浅い。栗色で、やや光沢を持ち、殻表 は平滑。外唇は肥厚・反転しない。本州(東北地方南部以南~九州に分布し、比較的低標高の 自然度の高い林床の落葉下に生息する。都内では、区部の皇居や港区の自然教育園および南多 摩の八王子市から記録されている。個体数は多くないものの、近年も生息が確認されている。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が生存脅かすと考えられるが、現在知られている 生息地での開発の影響は小さいのかもしれない。ただ、降水量減少等の林床環境の乾燥のよう な温暖化が影響している可能性も想定され、生息地の面積が小さい地域では、この影響が強く 懸念される。 確認年代 ●2000年以降

■特記事項:

執筆者 黒住耐二 文献一覧 1, 7, 8, 9, 29



マサトヨキビ Trochochlamys sp. 1

有肺目 シタラ科

有肺目

シタラ科

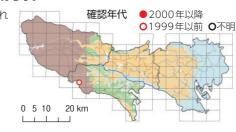
2020 2010 ■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。 殻高 2.4mm、 殻径 3.3mm 程度の円錐形、薄質。 螺塔

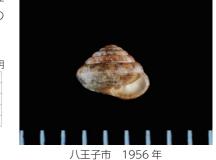
はやや高く、各層は少し膨らむが、縫合は浅い。螺層数は多い。体層周縁に弱いが、明瞭で竜 骨化した角を持つ。臍孔は極めて小さい。明褐色で、殻表はほぼ平滑で、弱い光沢を持つ。体 層底面は膨らむ。高尾山の山頂部の倒木下から過去に確認されたものの、近年の確実な記録は ないようである。類似種の情報から、ブナ林のような落葉広葉樹林に生息していたと思われる。 ■ 生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられ、特に自然度の高い大径 木の存在する森林が消失すると絶滅してしまうかもしれない。また降水量減少等の林床環境の 乾燥のような温暖化が影響している可能性もあろう。

■特記事項:オキノクニキビに類似するとされ るが、現時点では未記載である。

執 筆 者 黒住耐二

文献一覧 16, 29, 65, 68







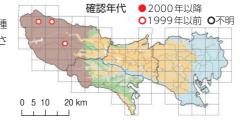
ニッパラキビ Trochochlamys sp. 2

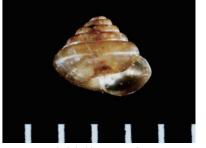
■種の特性と生息状況: 陸産巻目類。 設高・殻径とも 4mm 程度の円錐形、薄質。螺塔は高く、 各層はやや膨らみ、縫合は浅い。螺層数は多い。体層周縁に弱く、鈍い角を持つ。臍孔は僅か に開く。淡黄褐色で、殻表には極めて密で明瞭な成長肋を持つが平滑に見える。外唇は肥厚、 反転しない。東京都~群馬県からのみ報告されており、東京都では日原・倉沢両鍾乳洞付近と 御岳から記録されている。自然度の高い森林の落葉下に生息すると思われるが、近年の確認記 録は見つけ出せなかった。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が生存脅かすと考えられるが、現在知られている 生息地での開発の影響は小さいのかもしれない。ただ、降水量減少等の林床環境の乾燥のよう な温暖化が影響している可能性も想定され、生息地の面積が小さい地域では、この影響が強く 懸念される。

■特記事項:微小で、従来から個体数の多い種 ではなかったと推測されるが、近年に確認さ れていないことから高いランクとした。

執 筆 者 黒住耐二 文献一覧 31,56,68





東京都外 1982年

2020 DD DD DD (-)2010

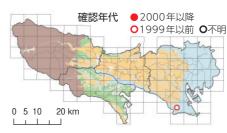
ビロードマイマイ(トウカイビロードマイマイ) 有肺目 Nipponochloritis oscitans ナンバンマイマイ科

■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高13mm、殻径18mm 程度の扁平な球形、著しく薄質。殻表に粗 い手状突起を有する。栗褐色。螺塔はやや高まり、体層は大きく、殻口縁は肥厚・反転しない。生殖器の鞭 状器はほとんど突出しないか短い。本州(東北地方から中部地方)に分布する。自然度の高い森林の倒木や 落葉下に生息している。東京都からの報告はきわめて少なく、区部・大田区池上本門寺と東京都も含まれる 可能性のある西多摩西端のプロットしか見いだせなかった。ただ、高尾山の標本が本種に同定されており、 最近の研究でも東京都にも本種が分布するとされている。このように、東京都における本種の生息状況は不 明確であり、森林伐採等の影響を戦後期等の早い時期に受けていた可能性も想定される。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、降水量減少等の林床環境の乾燥 のような温暖化が影響している可能性も想定される。

■特記事項:本類の和名表記では、ビロウドマイマイ とされることも多いが、殻表に短い毛状付属物を有 することから織物の天鵞絨に因んで名付けられてお り、現在の表記ではビロードとなる。別名トウカイ ビロードマイマイ。

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 39,55,65





類

爬

虫

類

両

生

類

水魚類

昆

虫

類

甲

殻

類

物

藻

類

哺

乳

類

類

貝

類

キヌビロードマイマイ

Nipponochloritis pumila

有肺目 ナンバンマイマイ科

有肺目

有肺日

■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。 殻高 14mm、 殻径 19mm 程度の扁平な球形、 著しく薄質。 殻表に密な毛状突起を有する。濃褐色。螺塔はほぼ平巻で、体層は大きく、殻□縁は肥厚・反 転しない。生殖器の鞭状器は長い。関東地方西部から中部地方東端部にのみ分布する。山地部 に比較的広く分布しており、比較的最近の調査でも、個体数は多くないものの、確認されてい る。

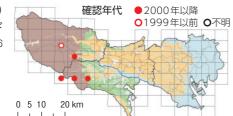
■ 生存を脅かす要因: 森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、前述の開発が小さ いと想定される西多摩の山地部でも確認個体数は少なくなっており、降水量減少等の林床環境 の乾燥のような温暖化が影響している可能性も想定される。

■ 特記事項: 本土部 2010 年版では、Sorita (1986) に従って、キヌビロードマイマイの亜種カン

トウビロードマイマイ(N. pumila kantoensis) としたが、最近の研究では、カントウビロード マイマイを亜種として識別できないとされてお り、今回はキヌビロードマイマイとした。

執 筆 者 黒住耐二

文献一覧 29, 55, 57, 58, 59, 79





2010 — DD DD DD

コベソマイマイ ナンバンマイマイ科 Satsuma myomphala

2020 DD (-)2010

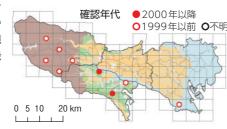
■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高30mm、殻径45mm 程度のやや菱形だが、周縁の 角は幼貝で強いが成貝では丸みを帯びる。殻はやや薄質で、淡黄白色の地色で、周縁に栗色の 細い色帯がある。臍孔は幼貝で狭く開くものの、成貝は覆われるように閉じ、周縁と同色の色 帯を持つ。成貝の殻口は反転するが、ほとんど肥厚しない。東京都は本種のおよそ分布域東端 に位置し、丘陵部から山地部に分布するものの、確認地点は少なく、低山地に多い傾向が認め られるようである。林内よりも林縁を好む。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、降水量減少等の林 床環境の乾燥のような温暖化が影響している可能性も想定される。

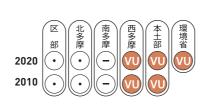
■特記事項:本土部2010年版では、対象とし なかったが、まだ当面は絶滅のおそれはない が、生息地点数・個体数も多くはなく、環境 改変が比較的高いと考えられる低山地の林縁 を好むようなので、留意種とした。

執筆者 黒住耐二

文献一覧 1, 10, 12, 24, 29, 58







稲城市 1989年

ヤセアナナシマイマイ

ナンバンマイマイ科

■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高13mm、殻径14mm 程度の円錐形、やや薄質。螺 塔は高く、側面観は僅かに外側にカーブし、各層はやや膨らみ、縫合はくぼむ。体層周縁は丸 く、通常、細い白帯がある。殻色は濃い栗色で、光沢が強い。臍孔は狭く開き、軸唇に覆われ る。殻□外唇は反転し、中央部にくびれを持つことが多い。東京都~静岡県の限られた地域に のみ分布する。山地の自然林内に生息する種であり、日原地域が分布の北東端に位置し、従来 から確認個体数は極めて稀であったようで、東京都産の本種の標本はほとんど所蔵されていな い。最近の調査でも、本種を確認することはできていない。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、前述の開発が小さ いと想定される西多摩の山地部でも確認個体数は極めて稀であり、降水量減少等の林床環境の

乾燥のような温暖化が影響している可能性も 想定される。

■ 特記事項:最近の調査でも確認できなかった ものの、いわゆる稀産種であるため、高い評 価を与えなかった。

執筆者 黒住耐二 (文献一覧) 31, 56, 68





カドコオオベソマイマイ

Aegista proba goniosoma

有肺目 ナンバンマイマイ科

有肺目

ナンバンマイマイ科

確認年代 ●2000年以降

○1999年以前 ○不明

■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高7mm、殻径11mm 程度のソロバン玉形、やや薄質。体層周縁は 弱い角を持つために、やや尖る。臍穴は広く開く。暗褐色で、殻表はごく細かい鱗片状突起を持つ殻皮で被 われる。外唇は肥厚、反転する。生殖器の鞭状器は太短く、その胴部でも明瞭な蛇腹状のくびれを持つ。東 海地方から東北地方南部に分布する。主に西多摩地域の自然度の高い森林に生息しているが、北多摩(野山 北公園)や区部(板橋区)でも最近の調査で確認されている。ただ、西多摩では1970年代頃には比較的高 頻度で見られていたが、最近の調査では確認個体数はかなり減少している。

■ 生存を脅かす要因: 森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、前述の開発が小さいと想定され る西多摩の山地部でも確認個体数は少なくなっており、降水量減少等の林床環境の乾燥のような温暖化が影 響している可能性も想定される。

■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高7mm、殻径11mm 程度のソロバン玉形、やや薄質。体層周縁は

丸く、角を持たない。臍穴は広く開く。暗褐色で、殻表はごく細かい鱗片状突起を持つ殻皮で被われる。外

唇は肥厚、反転する。生殖器の恋矢嚢が退化的であることと、鞭状器が単純なことが特徴である。西多摩・

東多摩では1970年代よりも確認個体数は減少しており、北多摩では最近の報告例であり、区部でも記録が

■特記事項:カドコオオベソマイマイは、従来からの アラハダオオベソマイマイ proba の亜種とされてき たが、近年の遺伝子による系統解析の結果ではアラ ハダオオベソマイマイとは異なる群に属するとされ

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 1, 10, 44, 54, 56, 72

コケラマイマイ

あるものの生息地点は極めて少ない。

響している可能性も想定される。

執 筆 者 黒住耐二

側所的に分布することから別種とされた。ここでは、

この見解を受け入れているが、遺伝子による系統解析

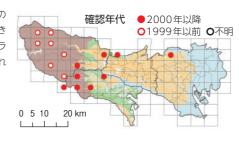
の結果では、コケラマイマイはカドコオオベソマイマイ

と同じ群となっているデータが示されている。区部の

群では、生殖器の検討が未了なので、情報不足とした。

文献一覧 31, 44, 56, 57, 59, 72

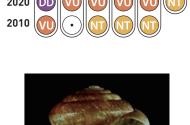
Aegista mikuriyensis

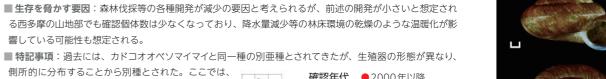




八王子市 1954年

VU VU





1988年

トウキョウコオオベソマイマイ 有肺日 ナンバンマイマイ科 Aegista tokvoensis

0 5 10 20 km

■種の特性と生息状況:陸産巻貝類。殻高6mm、殻径9mm 程度のソロバン玉形、やや薄質。 螺塔はやや高い。体層周縁の角は弱く、体層は全体として円みを帯びる。臍孔は広く開く。暗 褐色で、殻表はごく細かい鱗片状突起を持つ殻皮で被われる。外唇は肥厚、反転する。林床の 落葉下に生息する。陸産。関東地方南部~中部地方に分布するとされるが、中部地方の群に関 しては詳細な再検討が必要なように思われる。現在報告されている地点は、タイプ産地である 文京区小石川植物園と港区自然教育園程度であり、丘陵の低地部との境界域の林縁部で知られ ている。密度の情報はほとんどないが、極めて稀ではないように思われる。

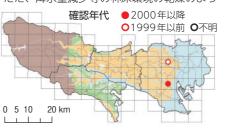
■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が生存脅かすと考えられるが、現在知られている 生息地での開発の影響は小さいのかもしれない。ただ、降水量減少等の林床環境の乾燥のよう

な温暖化が影響している可能性も想定され、 生息地の面積が小さい地域では、この影響が 強く懸念される。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二

(文献一覧) 9, 43, 45







文京区 1998年

爬

虫

類

両

生

類

水魚類

昆 虫

類

甲

殼

類

于

類

類

藻

類

哺

乳

類

類

Ħ

ク

オオケマイマイ 有肺目 ナンバンマイマイ科 Aegista vatheleti

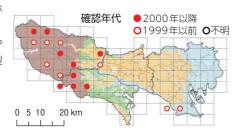
■ 種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高12mm、殻径27mm 程度のソロバン玉形、厚質。 体層周縁の角は強く尖る。臍孔は広く開く。殻皮は濁緑褐色で、周縁に短い三角形の鱗片状突 起があるが、成長とともにはげ落ちる。外唇は肥厚、反転し、白色。関東地方から四国北部の 広葉樹林の落葉・転石下に生息し、西日本では比較的個体数も多い。都内では、西多摩・南多 摩・区部の各地から記録されており、現在でも多摩地域では生息が確認されている。一方、区 部では過去には大田区の池上・本門寺等から報告されているものの、近年の記録は見いだせな かった。また、新たに板橋区・大門でも小面積の崖地で生息が確認された。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられ、区部では生息地が小面

積の森林に点在しており、樹木伐採により林 床が乾燥することによる激減が想定される。

■特記事項:区部・大田区の群は、多摩地域や 日本各地のものより、殻サイズがかなり小型 である。

執筆者 黒住耐二 文献一覧 1, 12, 31, 65





2010

大田区 1971年

CR CR EN 2020 2010

コオオベソマイマイ類の一種 有肺目 ナンバンマイマイ科 Aegista sp. 1

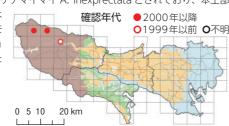
■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。 殻高 3.5mm、 殻径 11mm 程度の円盤型、 薄質。 螺層部はほぼ平巻で、 縫合はほとんど窪まない。周縁部に極めて強い突出した竜骨状の角を持つ。ほとんど毛状付属物を持たず、 淡い栗色で、やや光沢がある。臍孔は広く開く。外唇の肥厚は弱い。石灰岩露頭の凹所や転石下にみられる。 西多摩・日原地域の日原・倉沢両鍾乳洞付近から報告されており、最近の調査でも確認されたものの、新鮮 な個体も含まれていたが死殻のみしか確認できなかった。

■ 生存を脅かす要因: 森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、前述の開発が小さいと想定され る西多摩の山地部でも確認個体数は少なくなっており、降水量減少等の林床環境の乾燥のような温暖化が影 響している可能性も想定される。

■特記事項:従来、西多摩地域等の関東地方西部の石灰岩地に分布する群も殻形態の類似性から、愛知県豊 橋市石巻山をタイプ産地として記載されたオモイガケナマイマイ A. inexprectata とされており、本土部

2010年版でもこの名で示した。近年の遺伝子によ る系統解析の結果では、関東地方西部の群は、オモ イガケナマイマイとは全く異なる群であり、トウキョ ウコオオベソマイマイに最も近いことが示されたた め、ここでは別種として登載した。

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 31, 56, 72





奥多摩町 1981 年

コオオベソマイマイ類の一種 有肺日 ナンバンマイマイ科

■ 種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。殻高5.5mm、殻径10mm 程度の極めて低い円錐形で、 このグループとしては螺塔が高く、やや薄質。体層周縁に弱い角を持つ。臍孔は広く開く。暗 褐色で、殻表はやや粗な鱗片状突起を持つ殻皮で被われる。外唇の肥厚はやや弱く、反転する。 生殖器の鞭状器は棍棒状で、先端のみに捩じれが認められ、鋸歯状のくびれを有する。皇居か ら報告されたが、現時点では未記載のままであるが、類似の他種とは設サイズや生殖器の形態 から識別できるとされる。皇居の他、明治神宮でも確認されており、台地辺縁部の自然度のや や高い森林の林床下に牛息する。密度は、それ程、低くない。

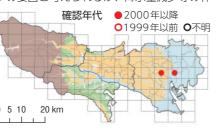
■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、降水量減少等の林

床環境の乾燥のような温暖化が影響している

可能性も想定される。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 7, 8, 27







渋谷区 1998年

ハコネマイマイ 有肺目 ナンバンマイマイ科 Euhadra callizona

■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。 殻高 2cm、殻径 2.5cm 程度の高い円錐形で、このグルー プとしては螺塔が高く、やや薄質。体層周縁に角はない。臍孔は狭く開く。黄白色で黒色の 3本の幅広い色帯があり、殻表は平滑。外唇の肥厚はやや弱く、反転し、白色。都内では高尾 山でのみ確認されている。自然林の林縁に生息し、以前には裏高尾にはやや普通とされていた が、現在では時に発見される程度である。ただ、元から個体数の多い種ではなく、高尾山は保 全されている地域なので急激に絶滅する可能性は低いと考えられる。

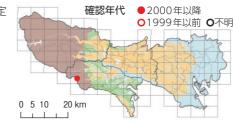
■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、開発が小さいと想 定される西多摩の山地部でも確認個体数は少なくなっており、降水量減少等の林床環境の乾燥

のような温暖化が影響している可能性も想定 される。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二

(文献一覧) 10, 29, 68



有肺目

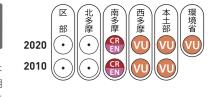
有肺日

ナンバンマイマイ科





八王子市 1960 年代



タカヤマヒダリマキマイマイ Euhadra scaevola scaevola

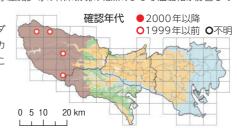
■種の特性と生息状況: 陸産巻貝類。 殻高 18mm、 殻径 30mm 程度のソロバン玉形、 螺塔は低く、 巻数は 多く、側面観は直線的で、螺層は少し膨らむ。縫合は浅くくぼむ。殻表には比較的密で規則的な成長肋が明 らか。栗色で、通常、周縁と臍孔の色帯が濃く、明らか。光沢はやや強い。体層の周縁角は明らかだが、竜 骨状とはならない。臍孔はやや広く開く。殻□はやや弱く肥厚・反転する。自然度の極めて高い渓流沿い等 の少し攪乱を受ける環境の石灰岩露頭下や転石下を好むようである。以前から個体数は少なく稀産種として 知られていた種である。南多摩では市道山からのみ知られており、周辺地域の近年の調査で自然林の伐採に よる植林で環境が改変されていると想定されることから激減している可能性が高いと考えられる。

■生存を脅かす要因:森林伐採等の各種開発が減少の要因と考えられるが、開発が小さいと想定される而多 摩の川地部でも確認個体数は少なくなっており、隆水量減少等の林床環境の乾燥のような温暖化が影響して いる可能性も想定される。

■特記事項:本亜種の和名として最近ではミヤマヒダ リマキマイマイとされることが多いが、当初はタカ ヤマヒダリマキマイマイと表記されていたので、こ こでは後者を用いている。

執 筆 者 黒住耐二

文献一覧 29, 56, 58, 59, 61





東京都外 1983年

カタマメマイマイ ナンバンマイマイ科 Lepidopisum conospira

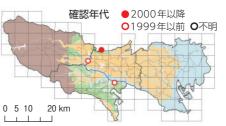
■種の特性と生息状況: 陸産巻目類。 殻高6mm、殻径7mm 程度の円錐形、螺塔は高く、巻 数は多く、側面観はやや膨らみ、螺層も少し丸い。縫合はやや深い。殻皮は淡褐色。殻皮には 疎な鱗状突起を持つ。体層は大きく、特に底部は良く膨らみ、周縁には角を持たず、円い。臍 孔は小さく、深い。殻口は弱く肥厚・反転する。本州から四国・九州に分布し、主に河川敷等 の草地等に生息する。ある地点で長期間個体群が安定して存在せず、「放浪種」的な性質を有 していると考えられている。都内では、江戸時代末に上野で採集されているが、その後の周辺 での記録はない。多摩川の河川敷で確認されているほかは、北多摩の野山北公園の植栽で死殻 が得られている程度である。

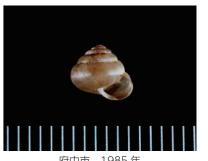
■生存を脅かす要因:河川敷を改変するような河川開発が行われると、本種の好適な湿度環境

が一時的にでも変化し、激減や絶滅してしま う恐れがある。

■特記事項:本土部2020年版レッドリスト公 表時には、種小名を verrucosum としたが、現 在は上記の異名同種となっている。

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 24, 46, 77





府中市 1985年

爬

虫

類

両

生

類

水魚類

昆

虫

類

甲

殼

類

類

類

類

物

藻

類

哺

乳

類

類

タガイ Beringiana japonica

■ 種の特性と生息状況:淡水産二枚貝類。殻長9cm、殻高5.8cm、殻幅3.5cm 程度の長卵形、中型、やや 薄質。殻頂は前方に寄り、あまり殻縁から突出しない。殻表に彫刻はなく、緑色系-黒色系の殻皮を被る。 内面にかみ合わせの歯はない。現時点において東京都で確認できた唯一の記録は、武蔵野の Seibi Pond (杉 並区・済美池?) のみであった。ただ、従来はドブガイとして識別されていたため、まだ都内に残存してい る可能性もある。なお、Seibi Pond からはヌマガイも報告されており、タガイが生息していたと判断できる。 比較的水質の良い池沼・水路等のやや砂質の水底に生息するようである。

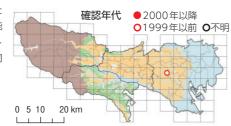
■ 生存を脅かす要因: 湖沼・河川の開発や水質汚染が減少の原因と考えられる。本種の幼生が付着する魚類 の生存も不可欠であり、水域環境の保全が必要である。

■特記事項: Seibi Pond 産のタガイ標本は、武蔵高校に残存している可能性もあり、今後の検討・報告が

望まれる。タガイ・ヌマガイ等が識別できなかった ため、以前にはドブガイとして報告されている可能 性もある。ただ、近年の都内での環境アセスメント 等でドブガイとして図示された写真中にタガイと同

定できたものはなかった。 執 筆 者 黒住耐二

(文献一覧) 24, 36, 37, 40, 80



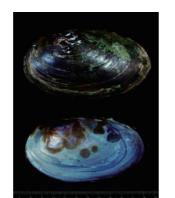
イシガイ目

イシガイ科

イシガイ目 イシガイ科

イシガイ目

イシガイ科



東京都外 2010年

カラスガイ Cristaria clessini

■ 種の特性と生息状況: 淡水産二枚貝類。 殻長 25cm、 殻高12cm、 殻幅8cm 程度の亜菱形、やや薄質。 殻頂は前方に寄り、殻縁からわずかに突出する。殻皮は成貝では黒褐色で、幼貝では緑褐色。殻表は成長肋 を有する他は、平滑。殻頂下に側歯を持つことで、ドブガイ類と簡単に識別できる。主に低地部の湖沼の止水 域の砂泥底に生息する。都内では、練馬区石神井ボート池・杉並区善福寺公園・東大三四郎池から記録があり、

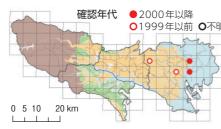
皇居赤坂御所に移入されている。皇居の濠の個体も確認しているが、この個体は移入群の可能性も残る。 ■生存を脅かす要因:湖沼・河川の開発や水質汚染、さらにはタナゴ類の産卵母貝としての採集が減少の原因 と考えられる。逆に、本種の幼生が付着する魚類の生存も不可欠である。

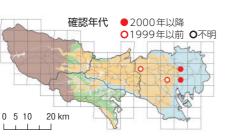
■特記事項:最近の遺伝子解析によって、琵琶湖の群を含めて、それ以東の群は、北海道~本州日本海側~東 アジアの大陸部に広く分布する plicata とは別種と認識されている。 clessini の和名をメンカラスガイとする見

解もあるが、イシガイと同様に、これまで琵琶湖固有 とされてきたメンカラスガイが各地へ移入されている例 も多く、移入群を識別しておくべきとの考えから、 clessini をカラスガイとし、plicata をホンカラスガイと するべきだと考える。琵琶湖の群を識別する場合には、 カラスガイ [琵琶湖型] としたい。

執筆者 黒住耐二

(文献一覧) 18, 22, 25, 37, 49, 53







イシガイ Nodularia nipponensis

■種の特性と生息状況:淡水産二枚貝類。殻長55mm、殻高28mm、殻幅23mm 程度の短い柳葉形で、堅 固、後端は尖る。殻皮は黒褐色。幼貝では緑がかり、殻頂付近には弱い松毬彫刻を持つことも多い。内面の 擬主歯は板状で、殻縁に平行する。低地部の緩やかな流れのある河川や用水路、あるいは止水域の砂底・砂 礫底に生息し、区部ではタイプ産地の向島 (Muko-shima) 等の少数の記録が確認できたのみで、北多摩で はかいぼりで発見された例がある。他地域とは異なり、東京都では明治期でも分布域・個体数とも少なかっ たようである。

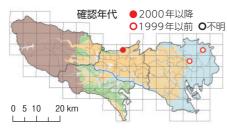
■ 生存を脅かす要因:湖沼・河川の開発や水質汚染、さらにはタナゴ類の産卵母貝としての採集が減少の原 因と考えられる。逆に、本種の幼生が付着する魚類の生存も不可欠である。

■特記事項:これまで日本産のイシガイは1種とされてきたが、遺伝子系統解析で、およそ東西で地理的に異なっ た2種に分かれるとされ、従来、イシガイの亜種とされてきた琵琶湖のタテボシは東の種に含まれるとされた。 そのため、N. nibbonensis をタテボシとする見解が示された。しかし、殻形態(擬主歯)で琵琶湖の群は殻形

態で識別できる場合が多く、また各地の湖沼に外来群 として移入されているため、ここでは、N. nipponensis をイシガイとした。N. nipponensis のタイプ産地は、 東京向島であることも最近示された。なお、西日本に 分布する N. douglasiae はチョウセンイシガイとしてお く方がよいと考える。

執 筆 者 黒住耐二

文献一覧 23, 24, 36, 37, 64, 75







千代田区 2003年



ヨコハマシジラガイ

Inversiunio jokohamensis

■種の特性と生息状況:淡水産二枚貝類。殻長50mm、殻高30mm、殻幅15mm 程度の卵形、大型、厚質、 堅固。殼頂は前方に寄り、浸食され、殼縁から突出しない。後縁は通常伸びる。殼皮は黒褐色で、殼表の分 岐した彫刻は弱く、通常、後背縁では不明瞭。グロキディウム幼生は腹側頂部に棘状突起を持つ有鉤型。マ ツカサガイと同所的に生息することもある。東京都では、北多摩の台地辺縁部の池から確認されている。本 種は主に緩やかな流れのある河川や用水路の流水域の砂底・砂礫底に生息する。

■生存を脅かす要因:湖沼・河川の開発や水質汚染、さらにはタナゴ類の産卵母貝としての採集が減少の原 因と考えられる。逆に、本種の幼生が付着する魚類の生存も不可欠である。

■特記事項:本土部2010年版の検討では、千葉県立中央博物館に高度経済成長期以前に採集されたと考え られる「武蔵」産の本種標本があったことから、本

土部として評価した。今回は、狭山丘陵からの報告 を確認した。過去の報告ではヨコハマシジラガイは マツカサガイと識別されていなかった可能性もある が、一方、近年のイシガイ目のまとめのデータでも 東京都からは未報告である。

マツカサガイ

Pronodularia japanensis

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 23, 24, 36

刻を有する。この彫刻は、通常殻全面に明瞭で、後背縁に及ぶ。グロキディウム幼生は腹側頂部に棘状突起

を持たない無鉤型。緩やかな流れのある河川や用水路の流水域の砂底・砂礫底に生息する。戦前には石神井

川等で記録されているものの、ヨコハマシジラガイを同種としており、詳細は不明である。今回、アセスメ

■生存を脅かす要因:湖沼・河川の開発や水質汚染、さらにはタナゴ類の産卵母貝としての採集が減少の原

■特記事項:これまで1種とされてきたマツカサガイは、遺伝子解析で、地理的に異なった3種に分かれる

0 5 10 20 km

ントの調査で、東大和市から本種が記録されており、僅かに谷戸環境に残存していると判断した。

因と考えられる。逆に、本種の幼生が付着する魚類の生存も不可欠である。

とされ、東京都の群は、「P. cf. japanensis 3 マツカ

サガイ北東本州固有種」ということになる。なお、

本種等はタナゴの産卵母貝として一般に販売されて

おり、東大和市の群もタナゴの産卵母貝のための移

入群の可能性も否定できないかもしれない。

確認年代 ●2000年以降 ○1999年以前 ○不明

イシガイ目

イシガイ科

イシガイ目

イシガイ科

確認年代 ●2000年以降

○1999年以前 ○不明

マルスダレガイ目

ニッコウガイ科





東大和市 2001年





東京都外 2008年

サビシラトリ

文献一覧 24, 36, 37, 80

Limecola contabulata

執 筆 者 黒住耐二

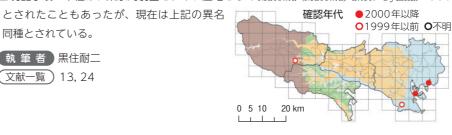
■種の特性と生息状況: 海産二枚貝類。殻長48mm、殻高37mm、殻幅18mm 程度の卵形、 やや厚質、膨らみが強く、腹縁は丸みを帯びる。殻頂は中央よりやや前方により、頂点となる。 後部は余り伸びない。殻表は成長肋によりやや粗面で、濁灰褐色の殻皮を持ち、光沢がない。 陶白色。内湾奥部の潮間帯中部の泥底に生息する。東京都からは多摩川河口のアセスデータが あり、今回の現地調査でも葛西・東なぎさで生息の可能性があったものの(新鮮な合弁個体の 殻頂部を確認)、ただ1個体のみの確認であった。

■ 生存を脅かす要因:海岸開発による泥質干潟の消失や水質汚染による影響が大きい。

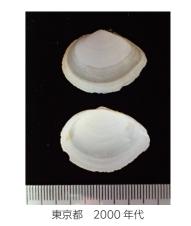
■特記事項:本種は、東京湾羽田をタイプ産地として Macoma (Macoma) anser Oyama, 1950

同種とされている。

執筆者 黒住耐二 (文献一覧) 13, 24







類

爬

虫

類

両

生

類

淡水魚類

昆

虫

類

甲

殻

類

哺

物

藻

類

貝

807

Ŧ

類

ウネナシトマヤガイ Neotrapezium liratum

マルスダレガイ目 ナガタガイ科

マルスダレガイ目

ハナグモリ科

2010 EX ■種の特性と生息状況: 海産二枚貝類。殻長30mm、殻高15mm、殻幅10mm 程度の亜長方

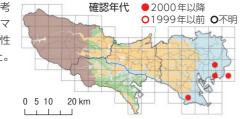
形、厚質、殻頂は前方に位置する。後背縁には明瞭な稜がある。殻表に明瞭な彫刻はないが、 成長するとやや粗い成長肋が目立つこともある。内面は白色で時に紫に彩色されることもある。 湾岸部から記録があり、潮間帯中部の礫等に付く。最近では葛西・東なぎさで、低密度だった が確認された程度である。

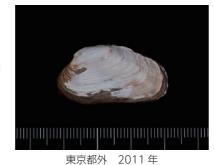
■生存を脅かす要因:河□域の礫等の硬質底に広く分布していたと考えられるが、海岸開発や 水質汚濁により激減したと考えられる。残存している干潟環境、特にアシ原の改変に関しては 十分な配慮が必要である。

■特記事項:現在、葛西・東なぎさ等の東京都で確認されている本種は、新しい移入群だとも

考えられる。前回は「完全に移入群」だと考 えて EX としたが、東京都ではハマグリやヤマ トシジミとの整合性も勘案し、残存の可能性 も否定できないと捉えて、今回は DD とした。

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 14, 24

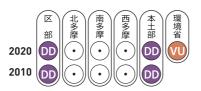




DD

DD

2020



ハナグモリ

Glauconome chinensis

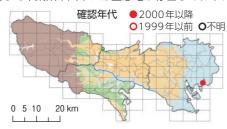
■ 種の特性と生息状況: 海産二枚貝類。殻長 20mm、殻高 12mm、殻幅 9mm 程度の亜方形、 薄質、腹縁は直線的で中央はわずかに窪む。殻頂はやや前方に寄り、突出する。殻表には細か い成長肋を持ち、やや粗面。緑黄褐色の殻皮があり、光沢はない。内湾奥部の潮間帯中部泥質 干潟に生息する種である。東京都では戦前に記録があったのみだったが、最近の葛西・東なぎ さの現地調査で比較的新鮮な合弁死殻が確認されたことから、僅かに生息している可能性が考 えられる。

■生存を脅かす要因:海岸開発による干潟の埋め立てと水質汚濁が減少の要因だと考えられる。 ■特記事項:東なぎさで得られた個体は、隣接した千葉県市川市には生息地が存在しており、

死後個体の漂着の可能性も否定できず、情報

不足とした。 執筆者 黒住耐二

(文献一覧) 12, 24, 26





DD

(-)

2020

2010

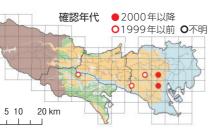
マメシジミ類の一種 マルスダレガイ目 マメシジミ科

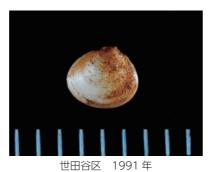
■種の特性と生息状況:淡水二枚貝類。殻長3.0mm、殻高2.2mm、殻幅1.7mm 程度の卵三 角形、薄質。殻頂は後方に寄り、殻縁から突出する。殻は半透明黄白色だが、殻表に付着物を 有する場合が多い。殻表は弱い成長肋を持つ他は、平滑。東京都では、区部の明治神宮で確認 されており、日野市産の標本も確認できた。主に湧水起源でも水量が少なく、緩やかな流れが あり、落葉がみられる林縁部水路の砂礫底に生息する。このように、台地部辺縁から低山地域 に比較的広く分布している可能性があるものの、条件の良い湧水でも確認されていないところ も多い。

■生存を脅かす要因:湧水が枯れる開発や水質汚染により、その地域から容易に絶滅すると想 定される。

■特記事項:湧水環境が改善されても、昆虫類 等とは異なり、マメシジミ類は近接地域から 再分散できない可能性が極めて高い。本属や 類似属の分類は未だ未確定なところが多く、 種名を確定できていないが、本種の存在は比 較的良好な環境を示している。

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 19





ヤマトシジミ Corbicula japonica

マルスダレガイ目 シジミ科

■種の特性と生息状況: 汽水産二枚貝類。殻長30mm、殻高28mm、殻幅18mm 程度の亜三 角形、やや厚質、腹縁はやや直線的。殻頂は中央に位置し、頂点となる。殻表にはやや粗い明 瞭な成長肋を有し、殻皮は漆黒色で、光沢がある。戦前から沿岸部の河口域で多く漁獲されて いる種である。戦後期には一時ほぼ漁獲がなくなりほぼ絶滅状態になった可能性もあるが、近 年では荒川・多摩川河□に多数生息している。葛飾区の東なぎさでは、河□ではなく干潟で本 種がみられた。現時点では、遺伝子解析によっても国外からの汽水性ヤマトシジミ類の日本へ の定着は確認されていないものの、近年確認されている本種は外来群の可能性も考えられるた め、情報不足とし、今後の研究を待ちたい。そのため分布図では、環境アセスメント等で報告

■種の特性と生息状況:淡水産二枚貝類。 殻長 25mm、 殻高 23mm、 殻幅 14mm 程度のやや低い亜三角形、

やや厚質、腹縁はやや直線的。殻頂は中央に位置し、頂点となる。殻表にはやや粗い明瞭な成長肋を有し、

殻皮は帯緑褐色で、不明瞭な褐色斑を散らすことが多い。光沢は弱い。内面腹縁部は紫色で、他は年輪状に

淡紫色に染まるものの、白色。低地部の河川・用水路の砂礫底に生息していたが、マシジミが多くの地域で

減少したのちに、現在では競合する外来種のタイワンシジミが広い地域に分布を拡大しており、ほぼ都内全 域でタイワンシジミに置き換わっているようである。分布図には、両種が含まれていると考えられる。

■生存を脅かす要因:水質汚染により激減し、さらに湖沼・河川開発による生息環境の改変も大きな影響を

■ 特記事項: 最近の遺伝子解析ではマシジミと外来のタイワンシジミは識別できないとされる例もあり、生物

学的にはマシジミとタイワンシジミは同種ということになると考えられる(地理的な亜種と認めることも困難)。

0 5 10 20 km

■生存を脅かす要因:水質汚染と河川河□域に より激減してしまっていたが、水質の改善に より明確に回復してきたとされる。

されたものをプロットしている。

■特記事項:

執 筆 者 黒住耐二 (文献一覧) 34, 35

マシジミ

Corbicula leana

与えていると考えられる。

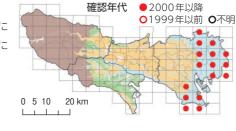
さらに、マシジミ自体が近世~近代の"外来種"であ

るというのが筆者の見解である。しかし、日本に移入

されたマシジミという群は、ある程度殻形態で識別で

き、「古くから人々に親しまれてきた"群"は認識単位

として残すべきである」と考えていることから、ここで は、マシジミを種レベルとして、対象種とした。





 (\cdot)

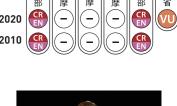
DD

2020 DD

2010

東京都外 1987年







武蔵 戦前

ハマグリ Meretrix lusoria

執筆者 黒住耐二

(文献一覧) 8, 18, 24, 28, 41

マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

○1999年以前 ○不明

確認年代 ●2000年以降

マルスダレガイ目

シジミ科

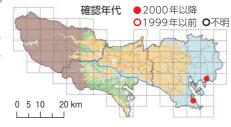
■種の特性と生息状況:海産二枚貝類。殻長5cm、殻高4cm 程度の丸みを帯びた三角形、や や厚質。殻表は平滑で、光沢がある。内湾の潮間帯下部〜潮下帯の砂泥質の干潟や海底に生息 する種であり、高度経済成長期以降、日本各地で激減している。東京都では高度経済成長期ま では多く漁獲されていたが、以降、ほぼ絶滅状況になった。水産資源として放流が行われたが、 効果はなかったとされる。都内では2009年以降確認され、調査時の採捕数も増加してきてい る。多摩川河口と葛西の東西なぎさでは現在も生息が認められている。

■生存を脅かす要因:海岸開発による埋め立てと水質汚染でほぼ絶滅状況となったが、水質が 改善され、復活してきた可能性もあり、今後もこれらの影響を最小限に抑えるべきである。ま た、在来種・外来種との交雑も確認されてい

るようである。

■特記事項:干潟の自然を象徴する種であり、 現在見られる群は外来群の可能性もあるが、 今後の詳細な検討にゆだねることとした。

執 筆 者 黒住耐二 文献一覧 38,52,82







東京都外 1950 年代

806

類

哺

類

爬

虫

類

両

生

類

水

魚

類

昆

虫

類

甲

殼

類

Ŧ

類

貝

類

藻

類

哺

乳

類

809

文献一覧

- 1. 粟飯原一郎 (2006) 板当沢の淡水産貝類と陸産貝類. 板当沢ホタル 調香団 編 日本三ホタル 10 種の生態研究: 56-61. 板当沢ホタル
- 2. 東正雄(1995)原色日本陸産貝類図鑑. 増補改訂版. 保育社: 343pp.+ 80pls.
- 3. 飯島明子・黒住耐二・風呂田利夫 (2002) 東京湾人工潟湖干潟に 形成された絶滅危惧種の干潟産腹足類カワアイCerithidea djadjariensis (Martin) (軟体動物門,腹足綱) の個体群. 日本べ ントス学会誌.57:34-37.
- 4. 上島励(2001) 皇居のカタツムリ、国立科学博物館皇居生物相調 査グループ編 皇居・吹上御苑の生き物:196-201.世界文化社.
- 5. 上島励(2010a) ハクサンベッコウ. 環境省自然環境局野生生物 課編,改訂レッドリスト付属説明資料. 貝類:53. 環境省自然環 境局野牛牛物課
- 6. 上島励(2010b) キヌツヤベッコウ. 環境省自然環境局野生生物 課編,改訂レッドリスト付属説明資料.貝類:54. 環境省自然環 境局野生生物課.
- 7. 上島励・元陳力昇・長谷川和範・齋藤寛(2014)皇居の陸産貝類 相. 国立科学博物館専報, (50):537-540.
- 8. 上島励・長谷川和範・齋藤寛 (2000) 皇居の陸産および淡水産貝 類. 国立科学博物館専報. (35):197-210.
- 9. 上島励・齋藤寛・長谷川和範 (2001) 自然教育園の陸産、淡水産 貝類. 自然教育園報告, 33:167-172.
- 10. 大熊量平 (1963) 都下高尾山の陸貝. ちりぼたん、2 (6): 185-
- 11. 大熊量平 (1972) 芝愛宕山採集記. やまきさご. (5): 18513-15.
- 12. 大澤清三郎 (1937) 郷土之貝. 自刊?. (再録:大澤清三郎 (1974) 蒲田の貝. ひたちおび, (3):6-8, 1地図. 東京貝類同好会.)
- 13. 大山桂(1950) 變更された化石貝類の學名について、鉱物と地質、 3 (6): 1-4.
- 14. 大山桂 (1953) 沿岸水の化石群集 -1. 資源科学研究所彙報. 31:
- 15. 岡部浩洋 (1961) 日本住血吸虫及び日本住血吸虫症の生物学及び 疫学. 森下薫 編 日本における寄生虫学の研究1:55-80. 目黒寄
- 16. 岡本正豊 (1974) 東京都高尾山のオキノクニキビガイ、やまきさご、 (15): 1-7.
- 17. 奥谷喬司 編著(2017) 日本近海産貝類図鑑 第二版, 東海大学出 版部:1375pp.
- 18. 川上誠太 (1985) 東京都多摩地区の淡水貝 (中間報告). みたまき, (19): 14-19
- 19. 川口貴光・清水高男 (2013) 明治神宮内の池で確認された水生無 脊椎動物 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調查報告書 鎮 座百年記念第二次明治神宮境内総合調査委員会 編:238-248. 明 治神宮社務所
- 20. 川名美佐男 (2002) 軟体動物 (陸産及び淡水産貝類), 改訂・埼 玉県レッドデータブック 2002. 動物編: 219-229, 249. 埼玉県.
- 21. 河村良介(1972) 目黒のオオギセル、ちりぼたん、7(1):15.
- 22. 紀平肇・松田征也 (1990) 琵琶湖・淀川淡水貝類. たたら書房: 131pp.
- 23. 久保田潤一 かいぼりで守り、取り戻す! 溜め池の生物多様性. 東京都建設局
 - https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/content/000040095.pdf. (参照 2018.7.30).
- 24. 黒住耐二 (2003) 多摩川水系の貝類からみた自然環境の現状把握 と保全に関する研究 (研究助成・学術研究, VOL.31-No.226). (財)
- 25. 黒住耐二 (2007) 貝類. 富士北麓生態系調査会 編 富士北麓水域 (富士五湖) における生態系多様性に関する調査報告書:61-71.

とうきゅう環境浄化財団: 242pp.

- 26. 黒住耐二(2011) 6. 貝類. 千葉県の保護上重要な野生生物 -千 葉県レッドデータブック-動物編 2011 年改訂版 千葉県レッドデー タブック改訂委員会 編:415-490. 千葉県環境生活部自然保護課.
- 27. 黒住耐二 (2013) 明治神宮で確認された非海産貝類. 鎮座百年記 念第二次明治神宮境内総合調査報告書,鎮座百年記念第二次明治 神宮境内総合調査委員会編:416-431. 明治神宮社務所.
- 28. 黒住耐二 (2014) 淡水二枚貝マシジミは近世期の外来種か-遺跡 出土貝類からの証明. 高梨学術研究基金年報 (平成 25 年度研究 成果概要報告):67-73
- 29. 黒住耐二 (2016) 7. 貝類. 八王子市動植物目録 新八王子市史自然 調查報告書. 八王子市市史編集専門部会自然部会 編: 247-254. 八 王子市市史編さん室.
- 30. 黒住耐二・大作晃一 (2021) くらべてわかる貝殻. 山と渓谷社: 127pp.
- 31. 黒住耐二・中原ゆうじ (2022) 日原鍾乳洞周辺を中心とした東京 都奥多摩地域における陸産貝類の現況調査. 千葉県立中央博物館 研究報告, 16(1):49-56.
- 32. 黒田徳米 (1936) 新貝速報 (2). Venus, 6 (4): 239-249.
- 33. 黒田徳米・波部忠重 (1949) かたつむり. 三明社: iv + 129pp.
- 34. 小泉正行 (2015) 東京都主要河川のヤマトシジミ. 東京湾の漁業 と環境。(6):5-7.
- 35. 古丸明·堀寿子·柳瀬泰宏·尾之内健次·加藤武·石橋亮·河村 功一・小林正裕・西田睦 (2010) 日本、韓国、中国産シジミ類の mtDNA16S rDNA 塩基配列分析による判別. 日本水産学会誌, 76
- 36. 近藤高貴(2008) 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会特別 出版物, (3): v+1-69. 日本貝類学会.
- 37. 近藤高貴(2020) イシガイ科貝類の新たな分類体系. ちりぼたん, 50:294-296
- 38. 塩屋照雄·相沢秀男·田中義高·福井省三(2003) 江戸前貝類漁 業小史 東京の干潟に生きた貝類漁師の覚書. 東京都内湾漁業環境 整備協会: 215pp.
- 39. 側自然環境研究センター 編 (2002) 生物多様性調査 動物分布調 査 (陸産及び淡水産貝類) 報告書 下巻 /2 分冊の 2. 環境省自然環 境局生物多様性センター: 1324pp.
- 40. 白井亮久・高田陽・福田悠人 (2020) 武蔵高等学校収蔵の戦前の 昆虫標本の整理 (予報) ~収蔵標本から探る創立期の生物相調査 と Fauna Musashiensis との関連について~. 武蔵高等学校中学
- 41. 瀬尾友樹・福田宏・近藤高貴 (2020) マシジミ. 岡山県版レッド データブック 2020. 岡山県野生動植物調査検討会 編:647. 岡山 **具環境文化部自然環境課**
 - https://www.pref.okayama.jp/page/656841.html (参照 2022.3.19).
- 42. 反田栄一 (1972) 採集報告. かいなかま, 6 (3):14-15.
- 43. 反田栄一(1976) トウキョウコオオベソマイマイの産地について、 ちりぼたん、9(2):37-39.
- 44 反田栄一 (1978) 関東南西部のコケラマイマイとカドオオベソマ イマイの生殖器について. Venus, 36 (4):181-190.
- 45. 反田栄一 (1980) 東京都小石川植物園産オオベソマイマイ属の1 新種. Venus. 39 (3): 142-147.
- 46. 高橋茂 (1999) 平成 10年の採集調査記録. しぶきつぼ, (20): 23-28. にいがた貝友会.
- 47. 千葉県環境生活部自然保護課編(2019) 千葉県の保護上重要な野 生生物 千葉県レッドリスト動物編 2019 年改訂版: 40pp.
- 48. 千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成委員会 編 (2013) 千葉県の外来生物 初版 (平成24(2012)年度). 千葉県希少生物 及び外来生物に係るリスト作成委員会:340pp.
- 49. 東京大学三四郎からカラスガイ. 朝日新聞. 1977年3月19日.
- 50. 東京都環境局緑環境課・有限会社ゼフィルス (2014) (キ) 貝類. 平成25年度多摩蓮光寺自然環境調査委託報告書:53-74.

- 51. 東京都建設局西部公園緑地事務所・有限会社ゼフィルス (2020) 井の頭恩賜公園水草再生調査委託報告書:260pp.
- 52. 東京都内湾漁業環境整備協会 編 (2016) 新江戸前の貝図録. 東京 都内湾漁業環境整備協会: 102pp.
- 53. 練馬区教育委員会(1964) 37 年度共同研究. 練馬区の動物について (野鳥・昆虫を除く). 練馬区教育委員会:103pp.
- 54. 萩原康夫・吉田譲・島野智之 編著 (2019) 土の中の美しい生き物 たち―超拡大写真でみる不思議な生態―:161pp. 朝倉書店
- 55. 早瀬善正・多田 昭 (2010) 関東地方に分布するビロウドマイマイ 属. かきつばた、35:19-27.
- 56. 前田和俊・大熊量平 (1965) 陸貝採集地めぐり (1): 日原鐘乳洞 附近.ちりぼたん、3(7):211-214.
- 57. 前田和俊・大熊量平 (1966) 陸貝採集地めぐり (2): 奥多摩御岳山 (武州御岳). ちりぼたん, 3(8):254-257.
- 58. 前田和俊・大熊量平 (1967) 陸貝採集地めぐり (8): 氷川および 五日市周辺、ちりぼたん、4(6):112-116.
- 59. 前田和俊・大熊量平 (1969) 陸貝採集地めぐり (18): 戸倉三山・ 今熊山.ちりぼたん, 5 (8):257-260.
- 60. 前田和俊・大熊量平 (1971) 「陸貝採集地めぐり」追加・訂正. ち りぼたん. 6 (7):170-172.
- 61. 前田和俊・大熊量平 (1971) 陸貝採集地めぐり (23): 小菅村西部. ちりぼたん, 6(5):120-122.
- 62. 前田信二. 2008. ネイチャーガイド 高尾山の自然図鑑. メイツ出 版:175pp.
- 63. 増田修・内山りゅう (2004) 日本産淡水貝類図鑑 (2) 汽水域を 含む全国の淡水貝類: 240pp. ピーシーズ.
- 64. 水と緑の部環境保全課・みずもと自然観察クラブ (1993) 葛飾の 水辺の生き物 葛飾区自然観察ガイドシリーズ 4. 東京都葛飾区:
- 65. 村岡健作編(1972)神奈川県立博物館自然部門資料目録(3)貝 類標本総合目録. 神奈川神奈川県立博物館: 8pls. + 222pp.
- 66. 山下博由(2003) 2-3 多摩川氾濫原の陸産貝類. 黒住耐二 多摩川 水系の貝類からみた自然環境の現状把握と保全に関する研究(研 究助成・学術研究, VOL.31-No.226): 13-33. (助とうきゅう環境浄
- 67. 山下博由·前田和俊·松隈明彦·奥谷喬司·波部忠重(1989)河 村コレクション貝類標本目録. I.有肺類 (1). 国立科学博物館:
- 68. 山下博由・前田和俊・松隈明彦・奥谷喬司・波部忠重(1990)河 村コレクション貝類標本目録、I.有肺類(2)、国立科学博物館:
- 69. 柚原剛·田中正敦·阿部絢香·海上智央·多留聖典 (2015) 多摩 川河口の塩性湿地に生息する表在性ベントス相. 神奈川自然誌資料, (36) : 25-30

- 70. 波部忠重 (1984) スェーデンの Vega 号の探検で採集された日本 産陸淡水産貝類. Venus, 43(4): 305-313.
- 71. Barker, G. M. (1999). Naturalised Terrestrial Stylommatophora (Mollusca: Gastropoda). Fauna of New Zealand, 38,254pp.
- 72. Hirano, T., Y. Kameda, K. Kimura and S. Chiba (2014) Substantila incongruence among the morphology, taxonomy, and molecular phyloneny of the land snails Aegista, Landouria, Trishoplita, and Pseudobuliminus (Pulmonata: Bradybaenidae) occurring in East Asia. Molecular Phylogenetics and Evolution, 70: 171-181.
- 73. Meier-Brook, C.(1983) Taxonomic studies on Gyraulus (Gastropoda: Planorbidae). Malacologia. 24(1-2): 1-113.
- 74. Mori, S. (1938) Classification of the Japanese Planorbidae. Memoirs of the College of Science, Kyoto Imperial University. Ser. B 1938, 14(2): 279-300.
- 75. MUSSELp. The Freshwater Mussels (Unionoida) of the World (and other lessconsequential bivalves), 2022-12-02, https:// mussel-project.uwsp.edu/fmuotwaolcb/nomsp_2550.html. (参照
- 76. Nekola, J.C., Chiba, S., Coles, B.F., Drost, C.A., von Proschwitz, T. and Horsak, M. (2018) A phylogenetic overview of Genus Vertigo O. F. Muller, 1773 (Gastropoda: Pulmonata: Pupillidae: Vertigininae). Malacologia, 62(1): 21-161.
- 77. Rinhardt, O. (1877) Üeber Japnische Hyalinen, unter Zugrundelegung der Sammlungen des Herren Hilgendorf und anknüpfend an die Aufzählung der Arten dieser Gattung in dem Aufsatze von Arth. Adams. Sitzungsberichte der Gesellschaft Naturforschender Freunde zu Berlin, 1877: 89-97.
- 78. Saito, T., T. Hirano, L. Prozorova, V.T. Do, A. Sulikowska-Drozd, T. Sitnikova, P. Surenkhorloo, D. Yamazaki, Y. Morii, Y. Kameda, H. Fukuda and S. Chiba (2018) Phylogeography of freshwater planorbid snails reveals diversification patterns in Eurasian continental islands. BMC Evolutionary Biology, 18(164).
- 79. Sorita, E. (1986) Studies on species of the genus Nipponochloritis Habe. 1955 from mainly Kanto district, Honshu, Japan-I. A new subspecies of Nipponochloritis pumila (Gude, 1902) and a new subspecies of N. bracteatus (Pilsbry, 1902). Venus, 45(2): 99-108.
- 80. Taki, Is. (1938) Freshwater molluscs. Fauna Musashiensis, 2:33-48.
- 81. Ueshima, R. (1995) Rediscovery of Neosuccinea kofui Patterson, 1971 with notes on the taxonomic position of "Succinea" lyrta Gould, 1859 and "S." horticola Reinhardt, 1877. Venus, 54(3): 161-173
- 82. Yamakawa, A.Y. and Imai,H. (2013) PCR-RFLP typing reveals a new invasion of Taiwanese Meretrix (Bivalvia: Veneridae) to Japan. Aquatic Invasion, 8(4): 407-415.

写真提供者一覧(貝類)

黒住耐二、丹下和仁、千葉聡

808

類

殼 類

Ŧ 類